

経済レポート

2016(平成28)年度 新入社員意識調査アンケート結果

～給料の多さよりも働きやすさを求める新入社員。理想の上司は「いぬ」～

調査部 研究員 藤田 隼平

当社では、毎年3月下旬～4月上旬に新入社員を対象とするセミナーを開催し、その受講者に対してアンケートを実施している。今年度は、東京、名古屋、大阪にて合計38講座を開催し、1,300名を超える新入社員が受講した。本レポートは、アンケートの集計・分析結果をまとめたものである。

【アンケート調査結果の概要】

- 理想の上司は「寛容型」。動物に例えれば「いぬ」。
 - 新入社員は「上司・先輩・同僚との人間関係」、「仕事が自分に合っているか、うまくできるか」について大きな不安を抱えている。このため、たとえ自分がミスを犯したとしても広い心で受け入れ、自分の成長を温かく見守ってくれる「寛容型」の上司を求めている。親しみやすさと辛抱強さを兼ね備えた「いぬ」は、まさにそうした理想の上司像に合致する存在と言える。
- リスク回避的。
 - 新入社員のうち海外勤務を「したい」、「してもよい」と答えた人の割合は合わせて4割程度と半数に届いていない。また、将来、投資をしてみたいか聞いたところ、「したい」、「してもよい」と答えた人の割合は4割程度とこちらも半数に届いておらず、リスク回避的な傾向が読み取れる。
- 30歳時点での予想年収は平均427万円。今後は最高で平均606万円まで上がると予想。
 - 新入社員の予想年収は、男性の方が女性よりも高く、大卒以上の方が大卒未満よりも高く見込まれる傾向がある。もっとも、給料が増えることよりも残業が少ない方を好むなど、新入社員の多くは給与水準よりワークライフバランスに重きを置いている。
- 今の日本は「曇り」。10年後についても悲観的な見方が広がる。
 - 新入社員の多くは日本の現状を「曇り」と考えており、その割合は上昇傾向にある。さらに、アベノミクスが本格始動した2013年以降初めて、10年後の日本の状態を「晴」と答えた新入社員の割合が20%を下回るなど、悲観的な見方が広がっている。
- 東京オリンピックの追加種目で正式採用が期待されるのは「野球・ソフトボール」。
 - 東京オリンピック・パラリンピックへの関心は誘致が決定した直後と比べると薄れている。また、東京オリンピックでは「野球・ソフトボール」、「空手」、「スポーツクライミング」、「スケートボード」、「サーフィン」の5つについて追加採用の是非が検討されているが、中でも「野球・ソフトボール」の正式採用に対して新入社員の半数以上が期待を寄せている。

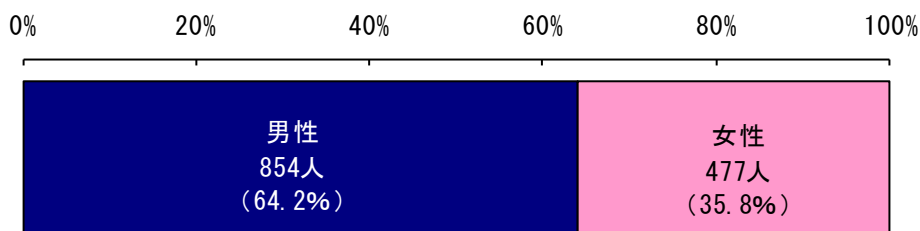
< アンケート調査の概要 >

当社の人財開発事業部は、東京、名古屋、大阪において新入社員を対象としたセミナーを開催し、受講者に対してアンケートを実施した。詳細は下記の通りである。

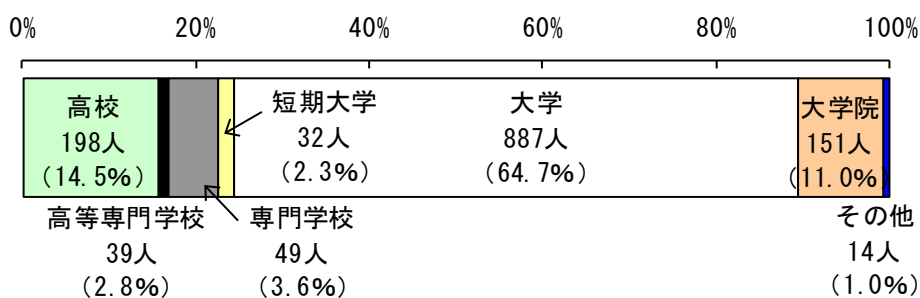
2016年度新入社員セミナー

開催日時 講座数	2016年3月29, 30, 31日、4月4, 5, 6, 7, 8日 (8日間) 合計38講座		
	セミナー 参加者数	アンケート 回答者数	アンケート 回答率
東京	501名	500名	99.8%
名古屋	454名	451名	99.3%
大阪	386名	384名	99.5%
合計	1,341名	1,335名	99.6%

性別 (アンケート回答者)



最終学歴 (アンケート回答者)



- 本アンケートとレポートは、当社人財開発事業部と調査部の協働で作成している。
【人財開発事業部】：セミナーの企画・実施、アンケートの企画・回収・集計
【調査部】：アンケートの企画、集計結果の分析、レポートの作成
- 特に断りのない限り、本文中および図表中で示す割合 (%) は、それぞれの設問の回答者全体に占める値である。また、本文中での大卒以上は大学、大学院の卒業者、大卒未満は高校、高専、専門学校、短大の卒業者を指す。
- 本アンケートの調査結果は、調査対象者の回答に基づくものであり、項目間で論理的な整合性がとれていないものもある。また、前回調査などとの比較に際する統計的有意性については担保しない。

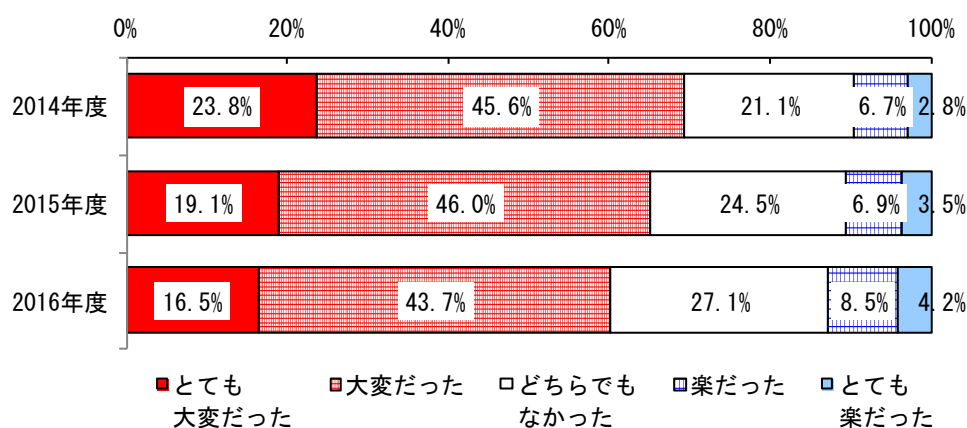
<2016年度アンケート結果>

1. 仕事に関すること

(1) 就職活動について

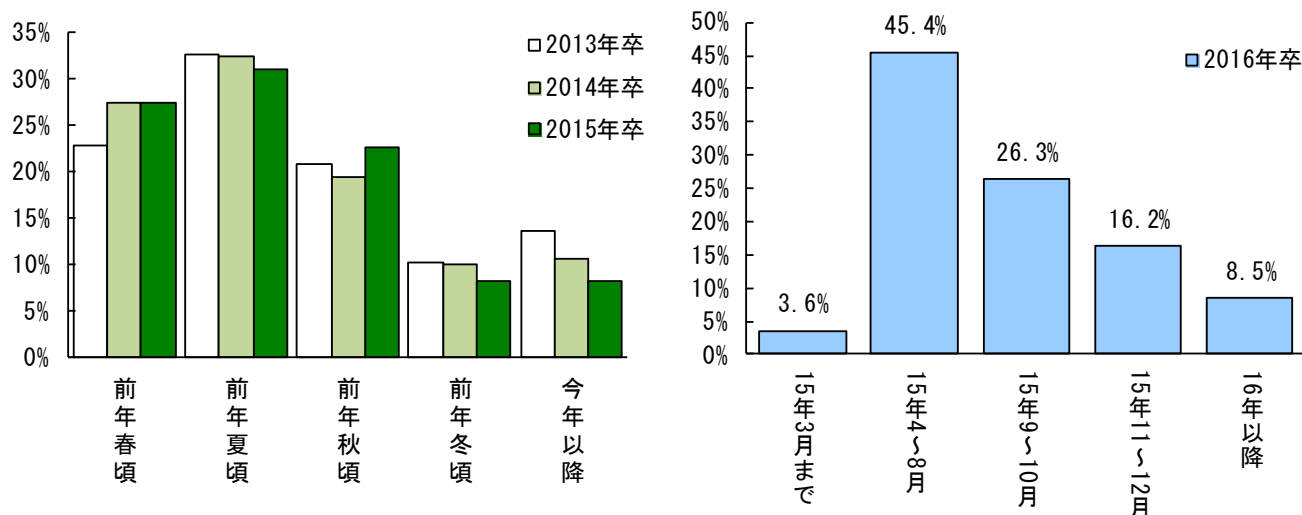
2016年卒の就職活動を取り巻く環境を振り返ると、国内景気は横ばい圏での推移が続いたものの、完全失業率は低下し、内定率が上昇するなど、雇用環境は良好な状態が続いた。実際、今年度の新入社員に、就職活動の感想を聞いたところ、「とても大変だった」(16.5%)や「大変だった」(43.7%)など就職活動が大変だったという回答は過半数を超えたものの、その割合はここ数年低下傾向にある(図表1)。

図表1. 就職活動の感想



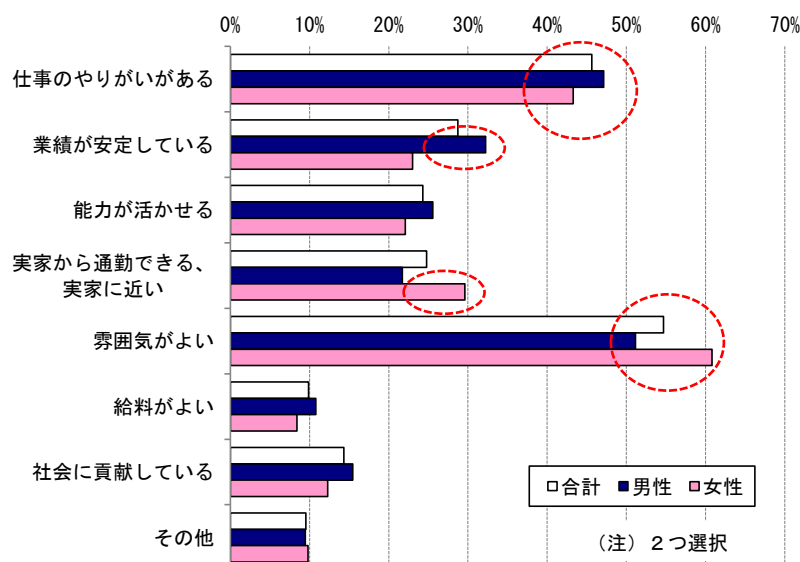
また、2016年卒は、経団連の指針により、企業の採用活動の時期が従来よりも後ろ倒しされた。企業による広報活動の開始時期が3月1日に3ヶ月後ろ倒しされ、選考活動の開始時期も4月1日から8月1日に変更となっていた。もともと、8月末までに内定が出た新入社員は約半数と例年を多少下回ったものの、年内に内定が出た割合は約9割と例年並みであった(図表2)。

図表2. 最初に内定が出た時期



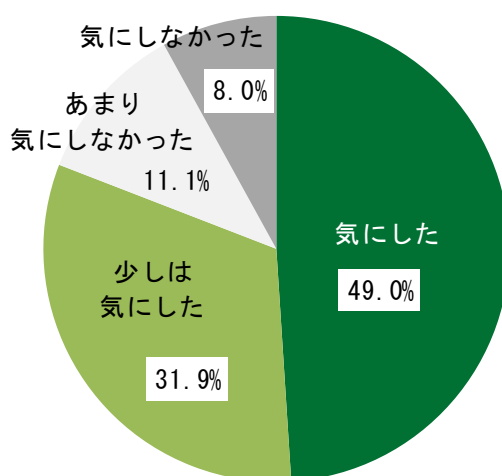
新入社員に会社を選んだ基準を聞いたところ、1位は「雰囲気が良い」(54.7%)で、2位が「仕事のやりがいがある」(45.6%)だった(図表3)。3位は男性と女性で異なり、男性は「業績が安定している」だったのに対し、女性は「実家から通勤できる、実家に近い」が選ばれた。また、「その他」では休日数や残業の多寡などが主だったが、中には「くるみんマーク¹の取得」や「過去3年間の離職率」などを挙げる者もいた。

図表 3. 今の会社を選んだ基準



最近、「ブラック企業」が話題になっている。一般に、ブラック企業とは、過大な残業時間やパワハラなど劣悪な環境下での労働を強いる企業のことであるが、就職活動の際にブラック企業ではないかという点を気にしたかを新入社員に聞いたところ、半数近くが「気にした」(49.0%)と答え、「少しは気にした」(31.9%)と合わせると8割強にも上った(図表4)。

図表 4. 就職活動の際、「ブラック企業」を気にしたか

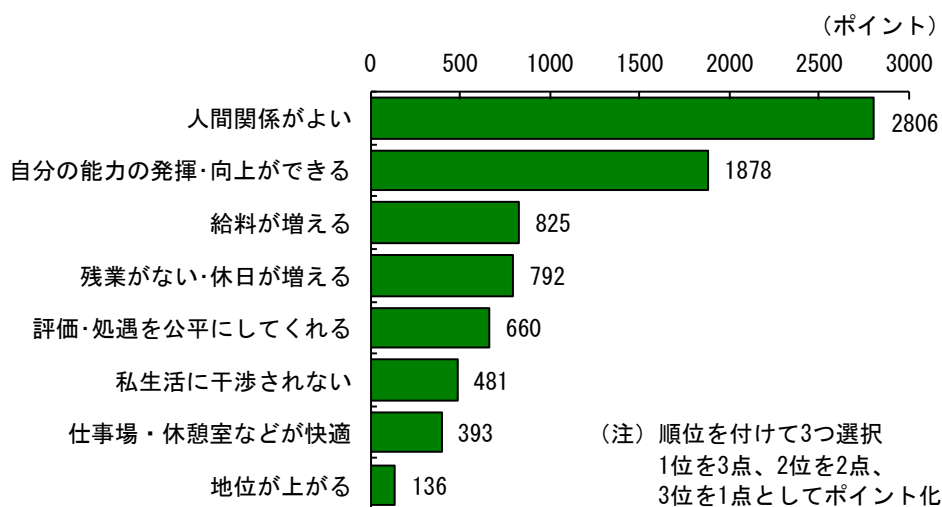


¹ 「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣に認定を受けた証。

(2) 会社に対して

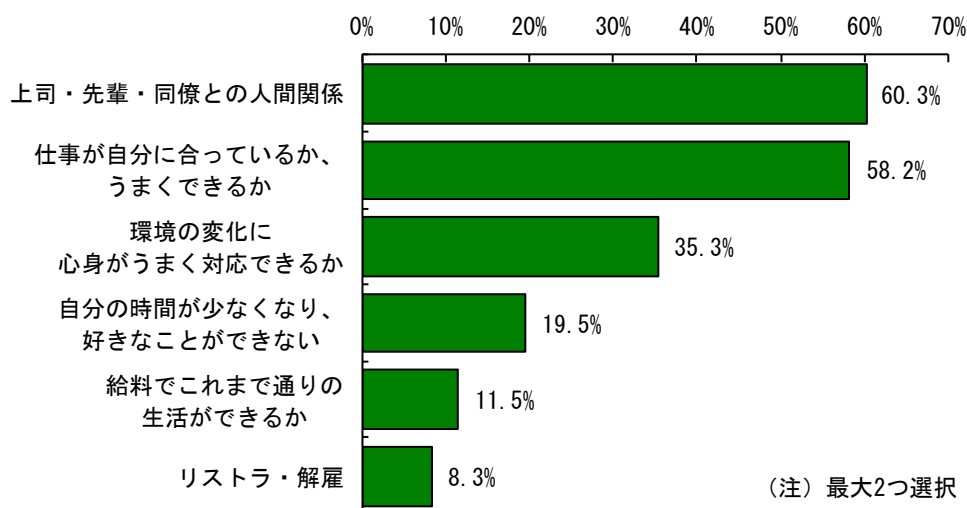
今年度の新入社員は会社に対して何を望んでいるのだろうか。図表5は選択肢の中から「会社に望むこと」として上位3つを選んでもらい、1位を3点、2位を2点、3位を1点としてポイント化したものである。これを見ると、最も高かったのは「人間関係がよい」で、次いで「自分の能力の発揮・向上ができる」となった。こうした傾向は、本アンケート調査を開始した2004年度以降、毎年変わっていない。

図表5. 会社に望むこと



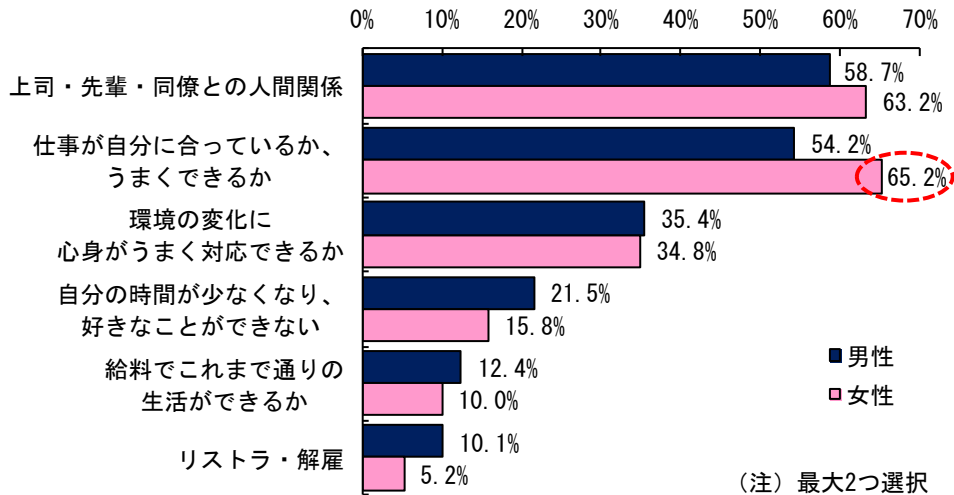
また、仕事や職場生活に関する不安を聞いたところ、「上司・先輩・同僚との人間関係」(60.3%)が最も高く、次いで「仕事が自分に合っているか、うまくできるか」(58.2%)となった(図表6)。会社に望むことと同じく、職場での人間関係に対する新入社員の関心の高さが読み取れる。

図表6. 仕事・職場生活に関する不安



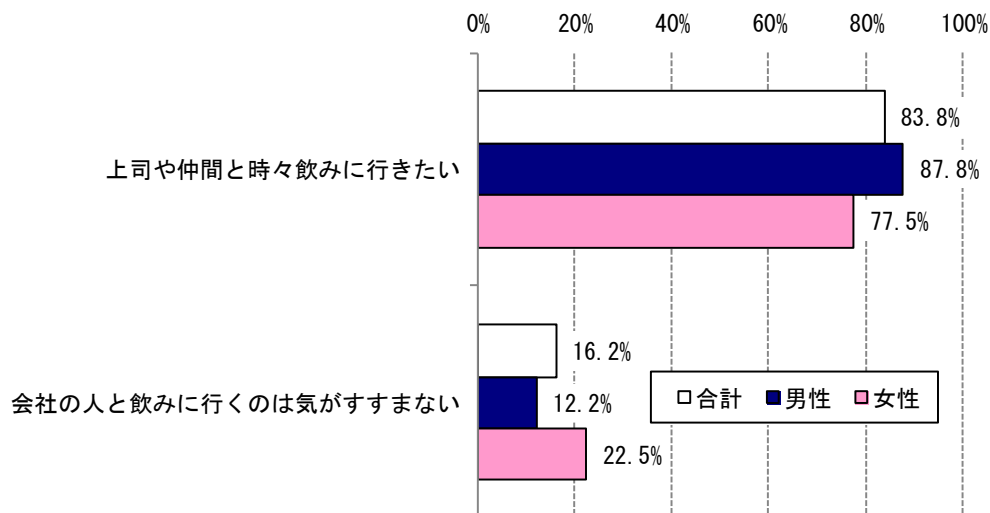
なお、本設問では男性と女性で回答に多少の差が見られた（図表 7）。全体では 2 位だった「仕事が自分に合っているか、うまくできるか」は、女性では 1 位となっており、回答割合も男性と比べて 10% ポイント以上高いなど、就労そのものに対して不安を抱く傾向が強いことが分かる。

図表 7. 仕事・職場生活に関する不安（性別）



人間関係を大切にする新入社員であるため、終業後にも上司や同僚たちと良好な関係を築きたいとの願望も強い。新入社員に終業後の飲み会について、「上司や仲間と時々飲みに行きたい」、「会社の人と飲みに行くのは気が進まない」のうち自分の考えに近い方を選んでもらったところ、「上司や仲間と時々飲みに行きたい」の割合が 8 割程度に上った（図表 8）。ただし、女性の方が男性と比べて飲みに行くことに消極的な傾向も同時に指摘できる。

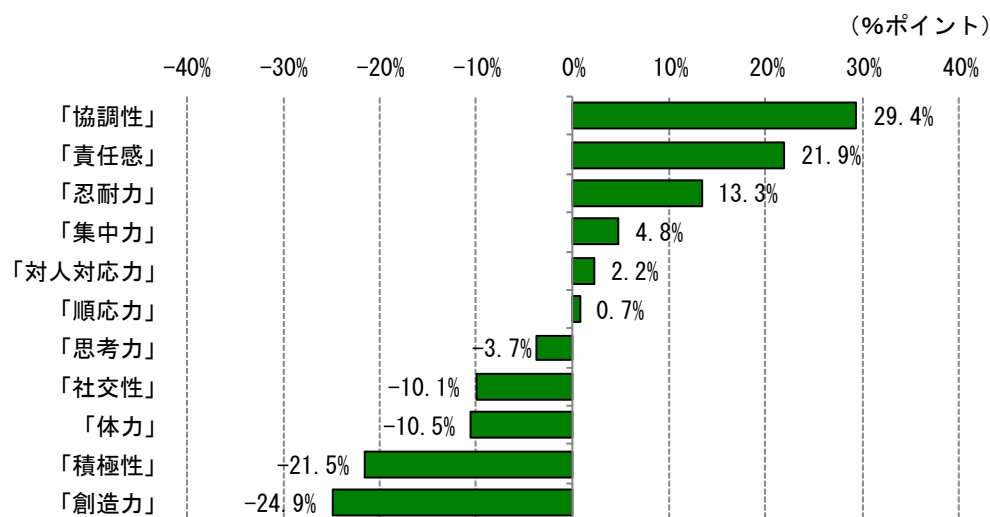
図表 8. 終業後の付き合い方



(3) 社会人としての資質

社会に出たばかりの新入社員であるが、社会人として自信があるもの、逆に欠けていると思うものは何だろうか。そこで、新入社員には社会人として「自信があるもの」、「欠けているもの」について、選択肢の中からそれぞれ最大2つまで選んでもらった。図表9は、その結果をもとに、DI（「自信があると答えた人の割合」－「欠けていると答えた人の割合」）を計算したものである。プラス幅が大きいほど、「自信がある」と答えた人の割合が高く、「欠けているもの」として選んだ人が少ない。これを見ると、最も高いのは「協調性」（29.4%ポイント）で、次いで「責任感」（21.9%ポイント）、「忍耐力」（13.3%ポイント）となっている。逆に最も低いのが「創造力」（-24.9%ポイント）で、次に「積極性」（-21.5%ポイント）である。人間関係を大切にする一方で、新しいことを考えたり、チャレンジしたりすることに対して苦手意識を持っている人が多いようだ。

図表9. 社会人としての自分に自信があるもの・欠けているもの



(注1) 「自信があるもの」と「欠けているもの」それぞれ2つずつ選択

(注2) DI = 「自信があると答えた人の割合」 - 「欠けていると答えた人の割合」

(4) 理想の上司

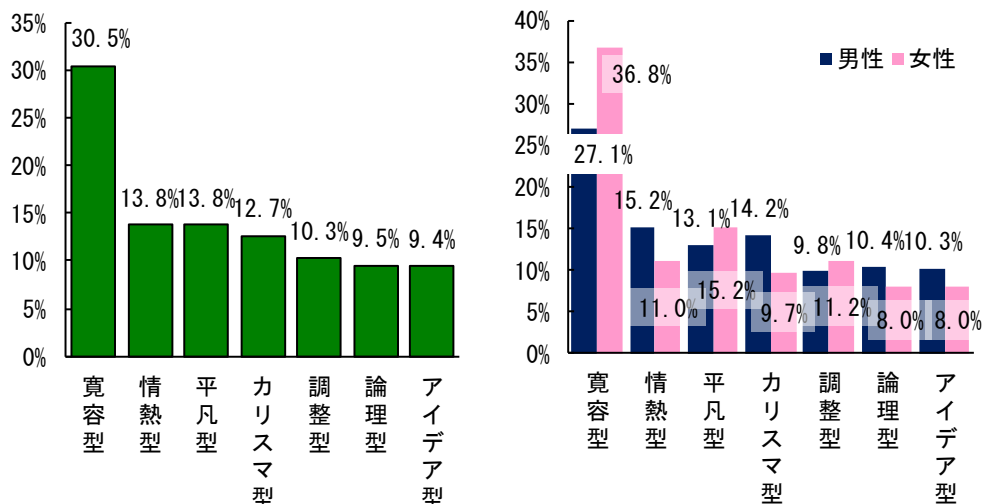
今年度の新入社員が描く理想の上司像はどんなものだろうか。今回は理想の上司を「寛容型」、「調整型」、「カリスマ型」、「アイデア型」、「論理型」、「平凡型」、「情熱型」の7種類に分け、その中から1つを選んでもらった。なお、各タイプには、図表10の通り、それぞれプラス・マイナス両方の特徴を示す説明文をつけた。

結果を見ると、理想の上司として最も多く選ばれたのは「寛容型」で、30.5%の支持を集めた。特に女性の支持が強く、男性では27.1%だったのに対し、女性では36.8%にも上った。新しい仕事に不安を抱える新入社員だからこそ、たとえミスをしてもらっても広い心で受け入れてくれ、自分の成長を忍耐強く見守ってくれる様な上司を求めているのだろう。これは望ましい指導のされ方にも表れており、新入社員はスパルタを嫌い、やさしく丁寧に指導してくれる上司や先輩を望む傾向が強い(図表11)。

また、「寛容型」に次いで支持を集めたのは、同率で「情熱型」と「平凡型」であった。男性は「情熱型」や「カリスマ型」などを選んだ人の割合が女性よりも高く、上司にはある程度の厳しさを求めている新入社員も多い一方、女性からは「平凡型」の人气が高く、可もなく不可もない普通の上司を求める声も多い。

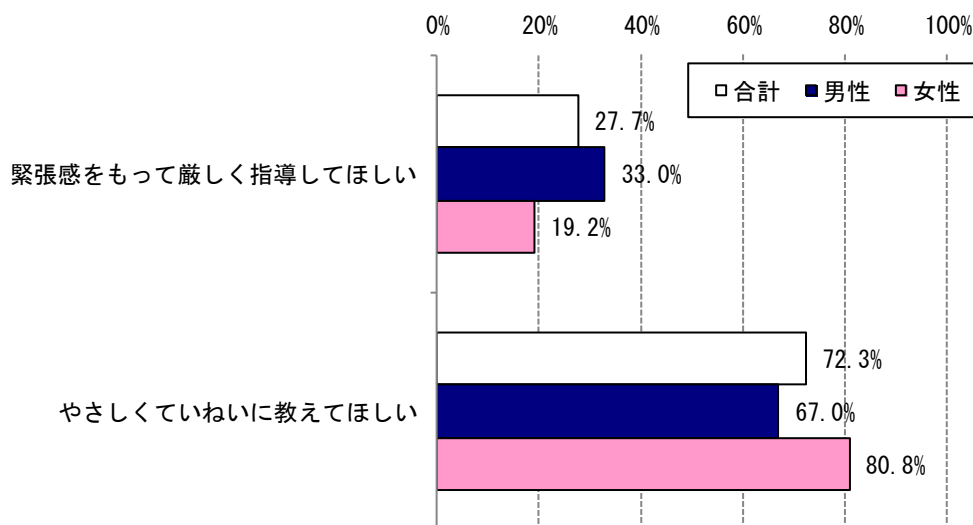
なお、最も少なかったのは「アイデア型」であり、次に「論理型」であった。わがままな面や柔軟性の乏しさなどが、人間関係を重んじ、寛容さを求める新入社員には受け入れられなかったとみられる。

図表 10. 理想の上司



寛容型	情に流されやすい面もあるが、寛容的で忍耐強い人格者
調整型	八方美人な面もあるが、順応性が高く調整や交渉が得意
カリスマ型	シブイ面もあるが、天性の才能を持つカリスマ的存在
アイデア型	わがままな面もあるが、自由奔放でユーモラスなアイデアマン
論理型	柔軟性に乏しい面もあるが、論理的で責任感が強い
平凡型	目立った長所はないが、とくに短所もなく常識的
情熱型	やりすぎる面もあるが、バイタリティに富み、何事にも熱心

図表 11. 指導のされ方



さらに、今回、新入社員には、こうした理想の上司を動物に例えてもらった（図表 12）。有効回答数 913 のうち、1 位に輝いたのは「いぬ」（得票率 14.5%）であった。親しみやすく相談しやすく、情に深く、忍耐強いなど「寛容型」のイメージがそのまま重なる。同様に、3 位の「ゾウ」（同 9.4%）、5 位の「ゴリラ」（同 3.4%）、6 位の「カバ」（3.1%）、同率 6 位の「キリン」（3.1%）、8 位の「クマ」（3.0%）なども優しさや忍耐強さを持ち合わせているというイメージからの選出となった。

また、2 位には「ライオン」（同 12.0%）が選ばれたが、強いリーダーシップを持っているイメージから選ばれており、これは「情熱型」や「カリスマ型」に通ずるものがある。組織力という点では同様に「サル」（2.7%）も 10 位にランクインしている。

その他には 4 位に「ねこ」（5.0%）がランクインした。自由気ままというイメージが「アイデア型」と重なりと同時に柔軟性を重視する人の得票を集め、回答がばらけたことも影響し、上位にランクインした。また 8 位にランクインした「パンダ」（3.0%）は、誰からも好かれるというイメージが多かった。これには人間関係を重んじる新入社員の志向が反映されているとみられる。

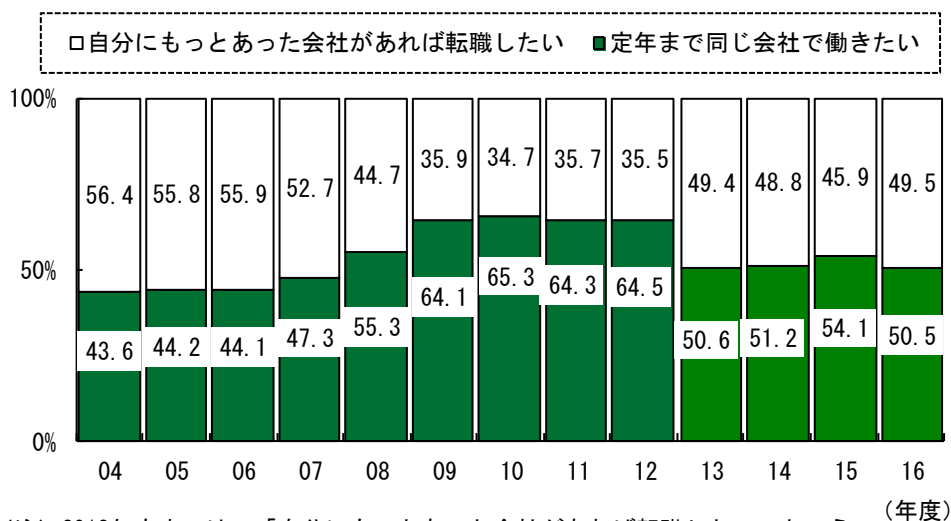
図表 12. 理想の上司を動物に例えると

順位	動物名	票数	得票率	イメージ
1位	いぬ	132	14.5%	親しみやすく相談しやすい。情が深く、忍耐強い。
2位	ライオン	110	12.0%	強いリーダーシップ。
3位	ゾウ	86	9.4%	どっしりとしていて安心感がある。寛大。
4位	ねこ	46	5.0%	自由気ままだが、柔軟性がある。
5位	ゴリラ	31	3.4%	力強いが、心優しい一面も。
6位	カバ	28	3.1%	普段は温厚だが、いざというとき頼りになる。
6位	キリン	28	3.1%	視野が広く、温かく見守ってくれそう
8位	クマ	27	3.0%	どっしりとしていて動じないが、いざというとき頼りになる。
8位	パンダ	27	3.0%	誰からも好かれる。
10位	サル	25	2.7%	集団を重んじ、組織力がある。

(5) 就労意識と出世願望

次に、「定年まで同じ会社で働きたい」、「自分にもっとあった会社があれば転職したい」のうちどちらの考えに近いかを選択してもらった。その結果、「自分にもっとあった会社があれば転職したい」と答えた人の割合は49.5%と前年から増加した(図表13)。労働需給がタイト化する中で転職市場も活況を呈しており、より良い就労機会があれば転職も考える新入社員が増えているのかもしれない。

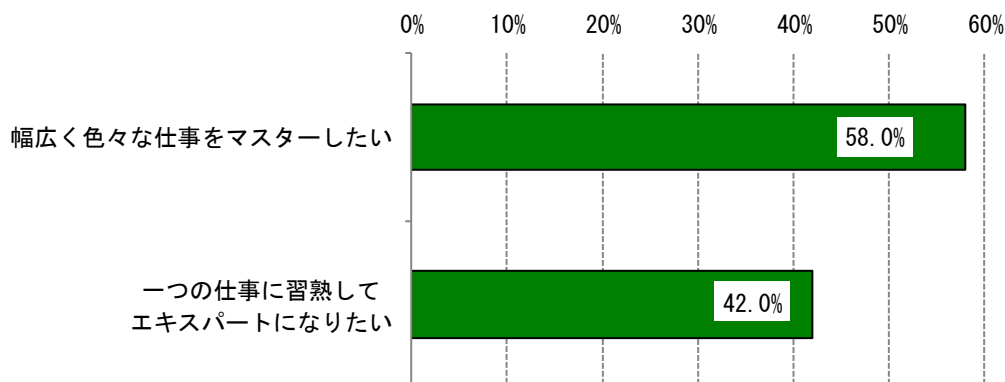
図表 13. 就労意識



(注) 2012年度までは、「自分にもっとあった会社があれば転職したい」という選択肢は「自分に向かないと思えばすぐに転職したい」だった

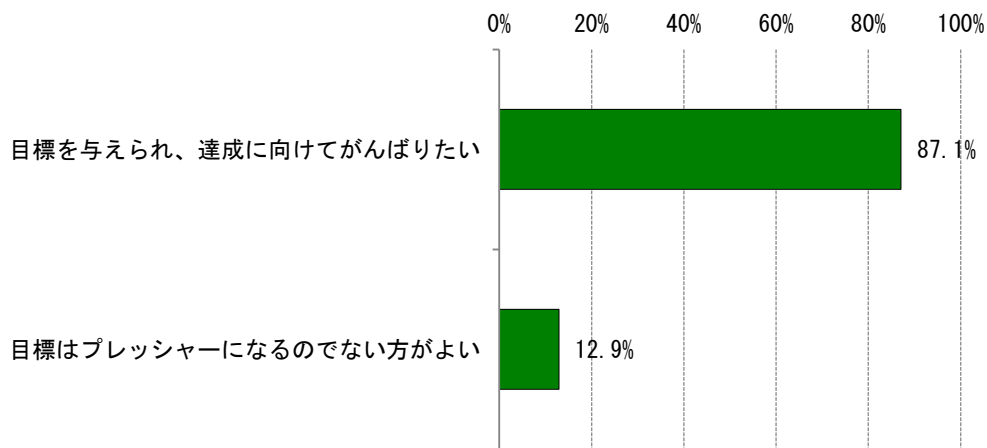
また、今の仕事で「幅広く色々な仕事をマスターしたい」のか、それとも「1つの仕事に習熟してエキスパートになりたい」のかを聞いたところ、「幅広く色々な仕事をマスターしたい」が58.0%、「1つの仕事に習熟してエキスパートになりたい」が42.0%となった(図表14)。入社時点では、どちらかといえばゼネラリスト志向が強い。

図表 14. エキスパートかゼネラリストか



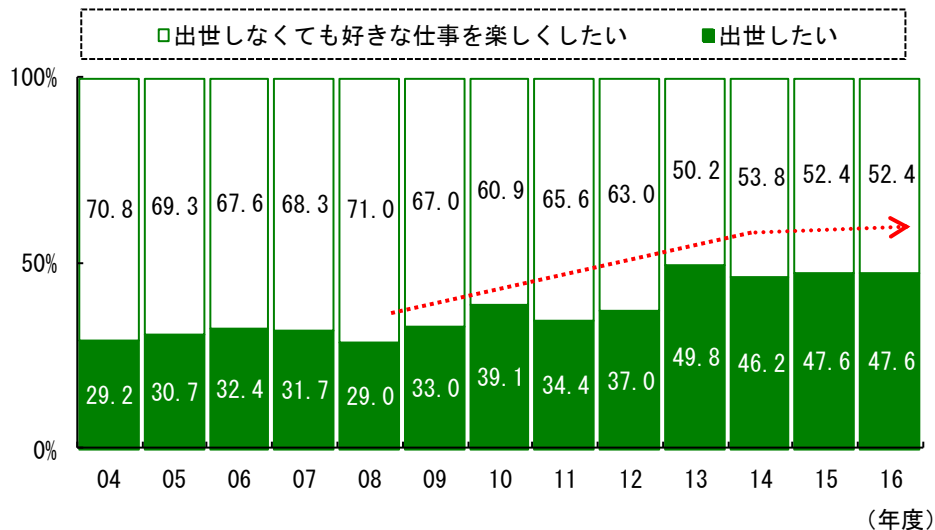
仕事に付きもののノルマであるが、「目標を与えられ、達成に向けて頑張りたい」、「目標はプレッシャーになるのでない方がよい」のうちどちらが自分の考えに近いか選んでもらったところ、「目標を与えられ、達成に向けて頑張りたい」が87.1%に上った（図表15）。目標を与えられることに対して否定的な見方をしたのはわずか1割程度と、新入社員の責任感ある姿を確認できる。ただし、図表9で示されているように、目標を置きにくい創造力を発揮する仕事には苦手意識があるのかもしれない。

図表 15. 目標設定は必要か？



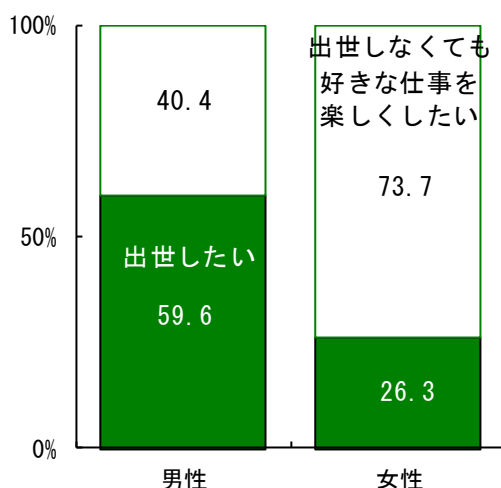
出世願望についても質問してみた。「出世したい」、「出世しなくても好きな仕事を楽しくしたい」のうちどちらの考えに近いか聞いたところ、「出世したい」が47.6%と過半数近くにまで上った（図表16）。リーマン・ショック前と比べて、新入社員の出世に対する意欲は高まっており、人間関係を重んじる中でも、ある程度の競争を受け入れる新入社員の複雑な心理状態を窺い知ることができる。

図表 16. 出世意欲



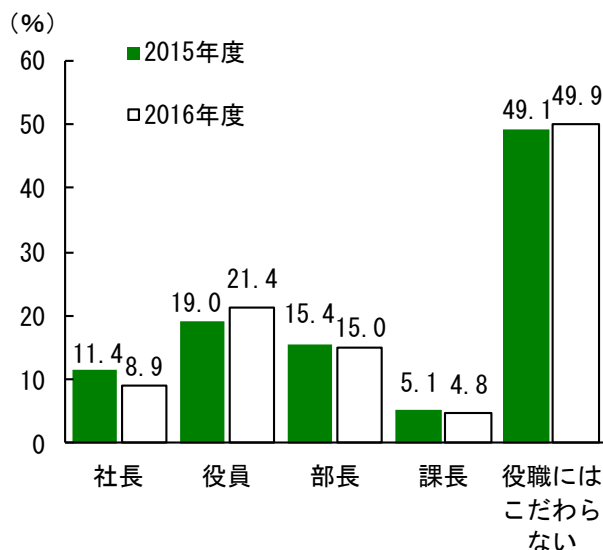
また、男女別に見ると、男性では「出世したい」が59.6%と過半数を超えているのに対し、女性では26.3%と約4人に1人しかおらず、男女間で出世意欲に大きな差が見られる（図表17）。政府が女性活躍を推進する中、足元では民間企業においても女性の役付者を増やそうという動きが見られるが、少なくとも女性の新入社員の意識との間には多少の隔たりがあると言える。もっとも、「出世しなくても好きな仕事を楽しくしたい」というのも立派な活躍の仕方と言えよう。

図表 17. 出世意欲（性別）



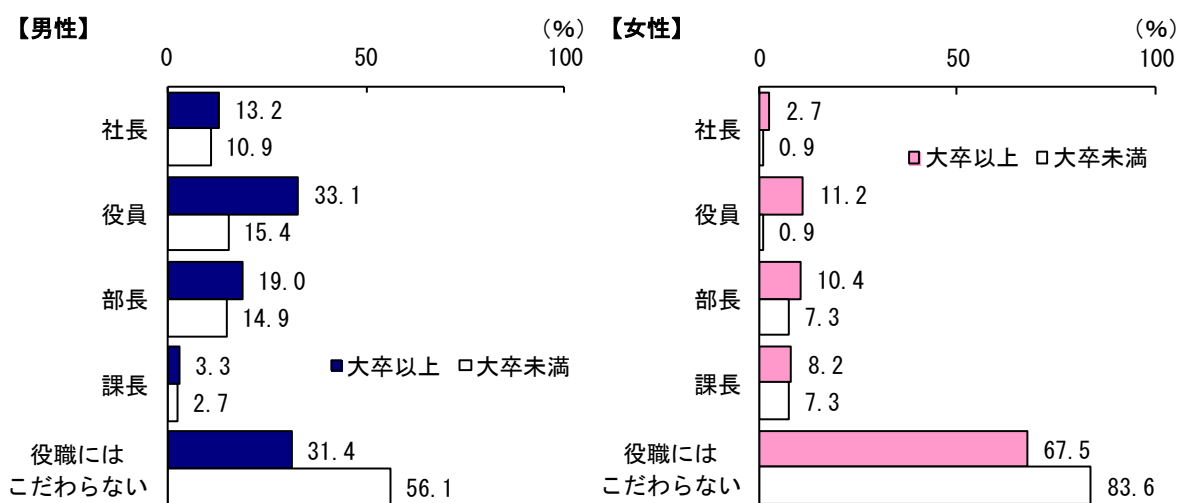
さらに、出世に関して、将来、どれ位の役職にまで出世したいと思うかを「社長」、「役員」、「部長」、「課長」、「役職にはこだわらない」以上5つの中から1つを選んでもらった。その結果、「役職にはこだわらない」との回答が49.9%と約半数に上るなど、出世したいものの、トップにはこだわらないというやや中途半端な結果が得られた（図表18）。なお、具体的な役職を答えた中では「役員」が最も多いなど、傾向は前年とほぼ同じであった。

図表 18. どれ位の役職にまで出世したいか



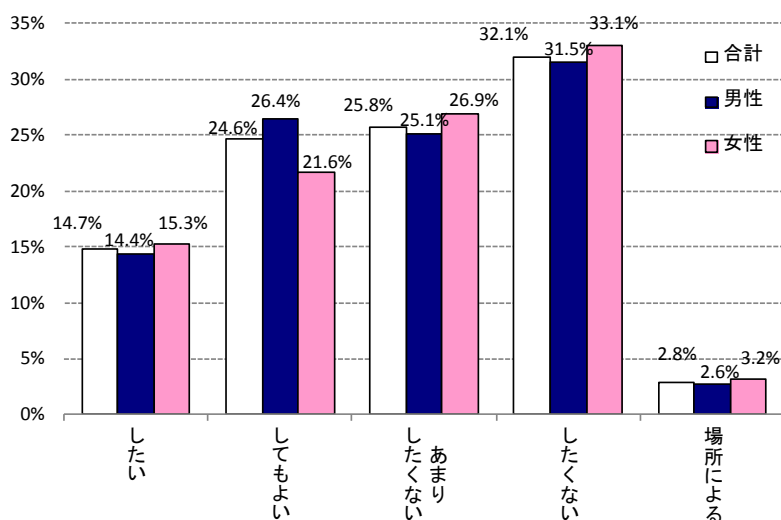
男女別、学歴別に出世意欲を見ると、男女とも大卒以上の方が役職名を選んだ割合が高く、出世に対してより具体的なイメージを持っている（図表 19）。また、女性の方が「役職にはこだわらない」を答えた割合が高く、出世はしたいと考える人も具体的などころまではまだ考えが及んでいないようだ。

図表 19. どれ位の役職にまで出世したいか（性別、学歴別）



最近の報道によれば、海外大学・大学院における日本人留学生の数が減少しているなど、若者の内向き志向が強まっているとされる。そこで、新入社員に対して、海外勤務をしてみたいかどうか聞いたところ、「したい」（14.7%）、「してもよい」（24.6%）と海外勤務に前向きな姿勢を示したのは約 4 割で、「あまりしたくない」（25.8%）、「したくない」（32.1%）と海外勤務に否定的な人の数の方が多かった（図表 20）。男性、女性ともに内向き志向が読み取れる。また、「場所による」という回答も一定数あるが、米国や欧州など先進国であれば行ってよいものの、新興国のうち中東やアフリカ、中南米など治安の悪い地域には行きたくないと考えている。

図表 20. 海外勤務をしてみたいか

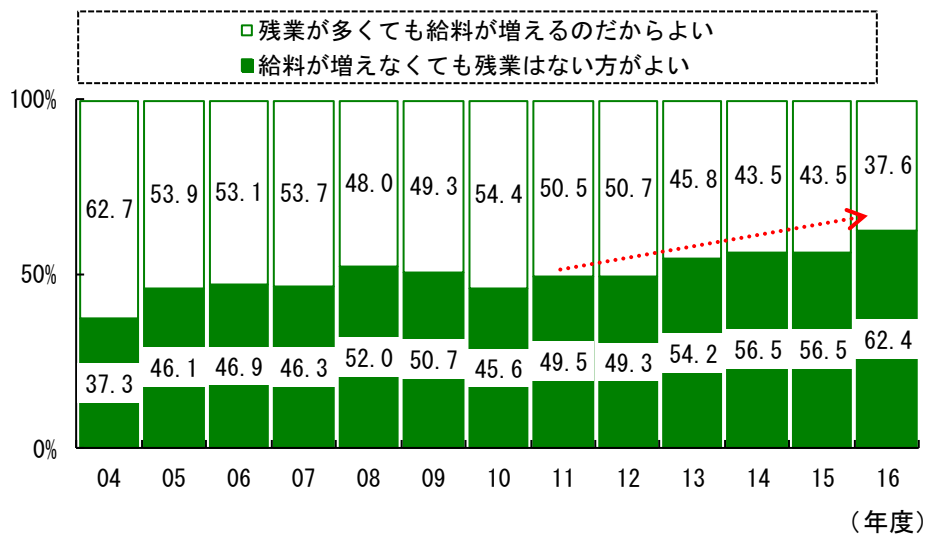


（注）「場所による」は自由回答で働いてもよい国と働きたくない国を自由回答で聞いた

(6) 残業に対する考え方

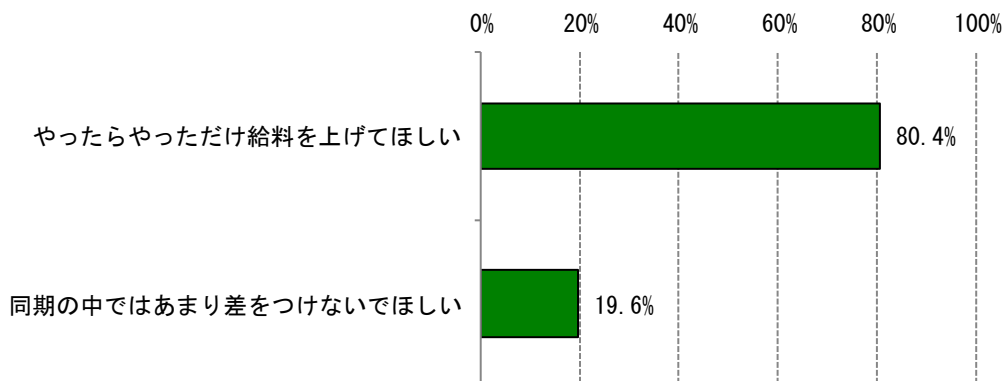
近年、仕事と私生活の両立を重視するワークライフバランスの考え方が浸透してきた。そこで、新入社員に残業についての考えを聞いてみた。「残業が多くても給料が増えるのだからよい」、「給料が増えなくても残業はないほうがよい」のうち、どちらの考えに近いかを選んでもらったところ、「残業が多くても給料が増えるのだからよい」を選んだ人の割合は37.6%だったのに対し、「給料が増えなくても残業はないほうがよい」は62.4%に上った(図表21)。残業に対して否定的な見方をする新入社員の割合は過去最高となり、私生活を大切にしたいという傾向がこれまで以上に強いようだ。

図表 21. 残業に対する考え方



もっとも、仕事をする以上は、正當に評価してほしいという思いもある。昇給に関して、「やったらやっただけ給料を上げてほしい」、「同期の中ではあまり差をつけないでほしい」という2つの選択肢について、自らの考えに近いものを選んでもらったところ、「やったらやっただけ給料を上げてほしい」の解答割合が80.4%だったのに対し、「同期の中ではあまり差をつけないでほしい」は19.6%にとどまった(図表22)。

図表 22. 昇給に関する事柄

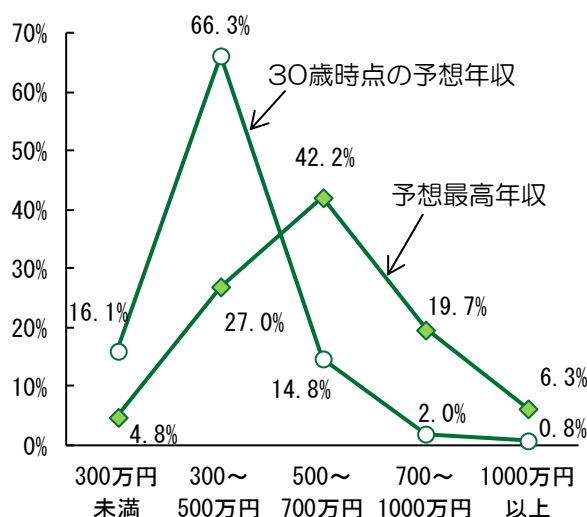


(7) 将来の年収予想

新入社員の多くは、給料が増えることよりも残業が少ないことを重視しているが、具体的に新入社員は自分がどれくらいの年収が得られると思っているのだろうか。図表 23 は 30 歳時点で自分がいくら年収をもらえと思うか聞いた結果である。これを見ると、「300～500 万円」(66.3%) が最も高く、次いで「300 万円未満」(16.1%)、「500～700 万円」(14.8%) とこの辺りがボリューム層を形成している。「700～1000 万円」(2.0%) や「1000 万円以上」(0.8%) という回答はごく少数であった。

さらに自分の年収は最高でいくらくらいになるのかも、同様に予想してもらった。すると、最も多かったのは「500～700 万円」(42.2%) で、次いで「300～500 万円」(27.0%)、「700～1000 万円」(19.7%) となった。「1000 万円以上」も 6.3% に上った。以上の結果をもとに新入社員の予想年収の平均値を計算すると²、30 歳時点では 427 万円、最高年収は 606 万円となった。

図表 23. 30 歳時点の予想年収および予想最高年収



また、予想年収は、性別や学歴によって異なる傾向が見られる。図表 24 は、男女別、学歴別に、予想年収の分布を表したものである(図表 24)。

まず、30 歳時点の年収については、男性では大卒以上で「300 万円未満」の裾野が薄く、「500 万円～700 万円」以上の裾野が厚いといった違いはあるものの、それほど目立った差は確認できない。他方、女性については大卒以上に比べて大卒未満で「300 万円未満」の割合が多く、「300 万円～500 万円」の割合が低くなっている。

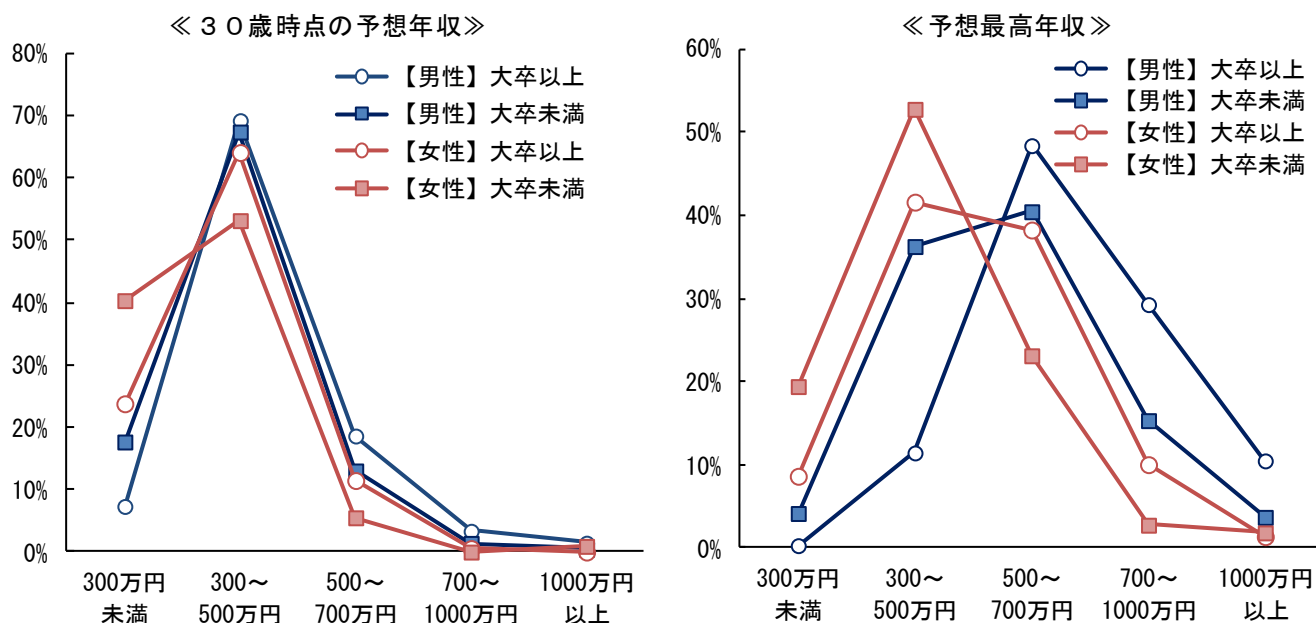
次に予想最高年収を見ると、今年度は 30 歳時点よりもはっきりとした違いが確認できる。男性・大卒以上では「500～700 万円」(48.4%) と「700～1000 万円」(29.3%) がボリューム層であるのに対し、男性・大卒未満では一つ手前の「300～500 万円」(36.3%) と「500～700 万円」(40.5%) がボリューム層を形成している。

² 「300 万円未満」は 300 万円、「1000 万円以上」は 1000 万円、その他の階層は中央値で計算

他方、女性・大卒以上は、男性・大卒未満と分布の形状が近く、「300～500万円」（41.6%）と「500～700万円」（38.3%）が多くなっている。これに対し、女性大卒未満は「300～500万円」（52.8%）が最も多い。「500～700万円」（23.1%）との回答もある程度あるものの、「300万円未満」（19.4%）の割合も比較的高く、全体的に分布が左に寄っている（右に歪んでいる）。

なお、一般に、賃金の水準は男性の方が女性よりも高く、大卒以上の方が大卒未満よりも高いが、今回のアンケート調査における将来の予想年収についても、そうした実態に沿う結果と言える。

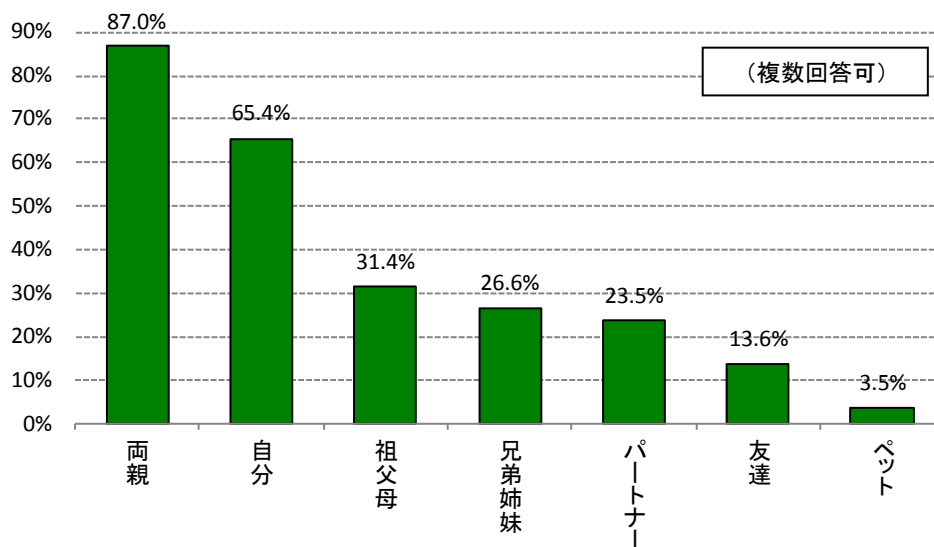
図表 24. 30歳時点の予想年収および予想最高年収（性別、学歴別）



(8) 初めてのボーナス

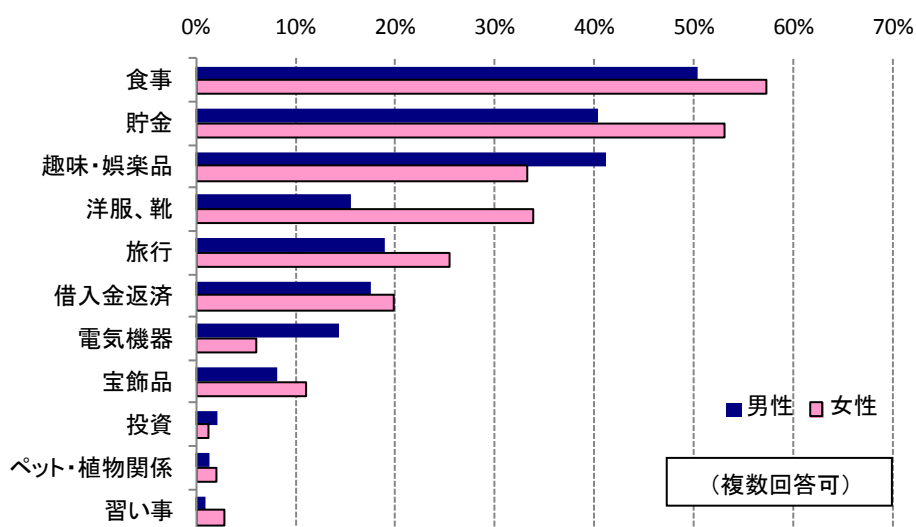
初めてのボーナスの使い道も聞いてみた。まず、ボーナスを使う相手を聞いたところ、最も多かったのが「両親」(87.0%)で、「自分」(65.4%)を上回った(図表25)。1年目の夏のボーナスで満額支給される企業は決して多くないとみられ、少額であれば自分のために使うよりも、これまでお世話になった人や親類のために使おうと考えているのかもしれない。

図表 25. 初めてのボーナスは誰と、もしくは誰に使うか



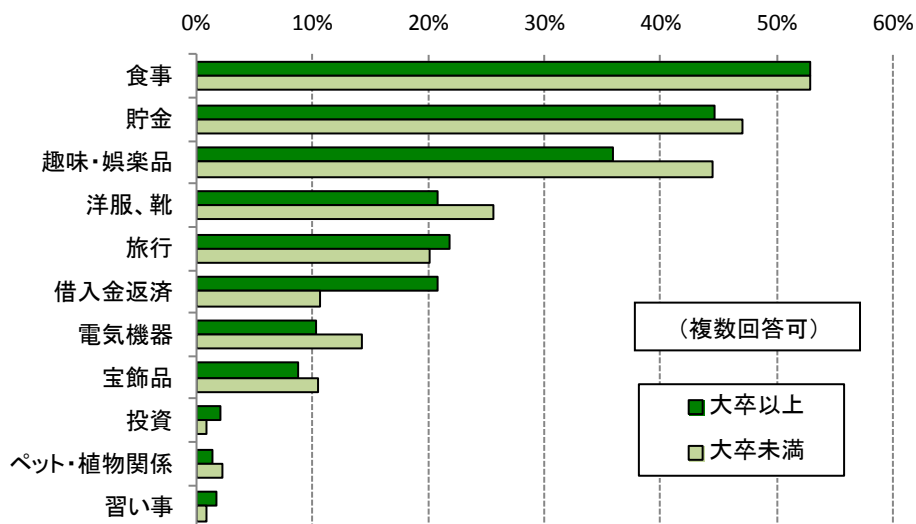
次に実際に何に使うかを聞いたところ、男女ともに最も多かったのは「食事」(男性:50.4%、女性:57.4%)であった(図表26)。2位以下は男女で多少異なり、男性は「趣味・娯楽品」(41.1%)、「貯金」(40.4%)と続くが、女性は「貯金」(53.1%)、「洋服・靴」(33.8%)となっている。

図表 26. 初めてのボーナスは何に使うか(性別)



また、学歴別に見ると、「趣味・娯楽品」（大卒以上：36.0%、大卒未満：44.5%）と「借入金返済」（大卒以上：20.7%、大卒未満：10.7%）の2項目について違いが見られた（図表27）。大卒以上の新入社員の中には、奨学金の返済に充てるため、自分の趣味などに回すお金をセーブしている人が少なからずいるとみられる。

図表 27. 初めてのボーナスは何に使うか（学歴別）



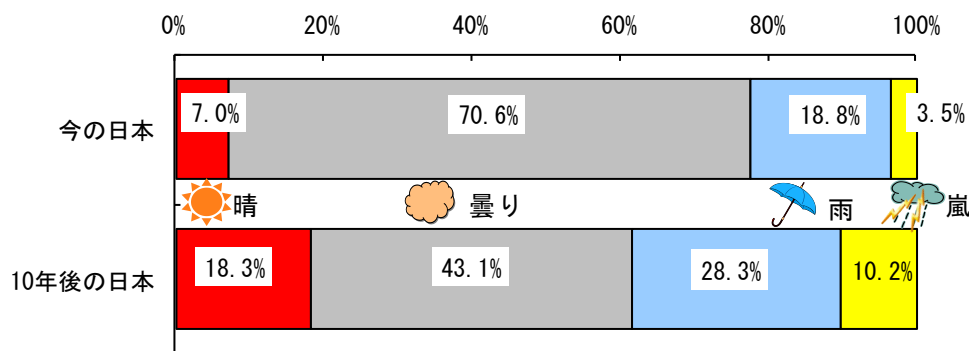
2. 経済、社会に関すること

(1) 日本経済について

2015年の日本経済は横ばい圏での推移が続いたが、今年度の新入社員はどう感じているのだろうか。今と10年後の日本の状態について天気(晴、曇り、雨、嵐)で表現してもらった。すると、最も多く選ばれたのは「曇り」(70.6%)となり、「晴」(7.0%)と答えた人は1割にも満たなかった(図表28)。さらに、「雨」(18.8%)という答えが「晴」を上回るなど、日本経済に対する厳しい評価が読み取れる。

他方、10年後の日本については、引き続き「曇り」(43.1%)と答えた人が最も多かったものの、半数以下にまで減少している。一方、「晴」(18.3%)と答えた人の割合は2割弱まで高まっているが、「雨」(28.3%)や「嵐」(10.2%)という回答がそれを上回って上昇しており、日本経済の先行きに対する見方は厳しいものとなっている。

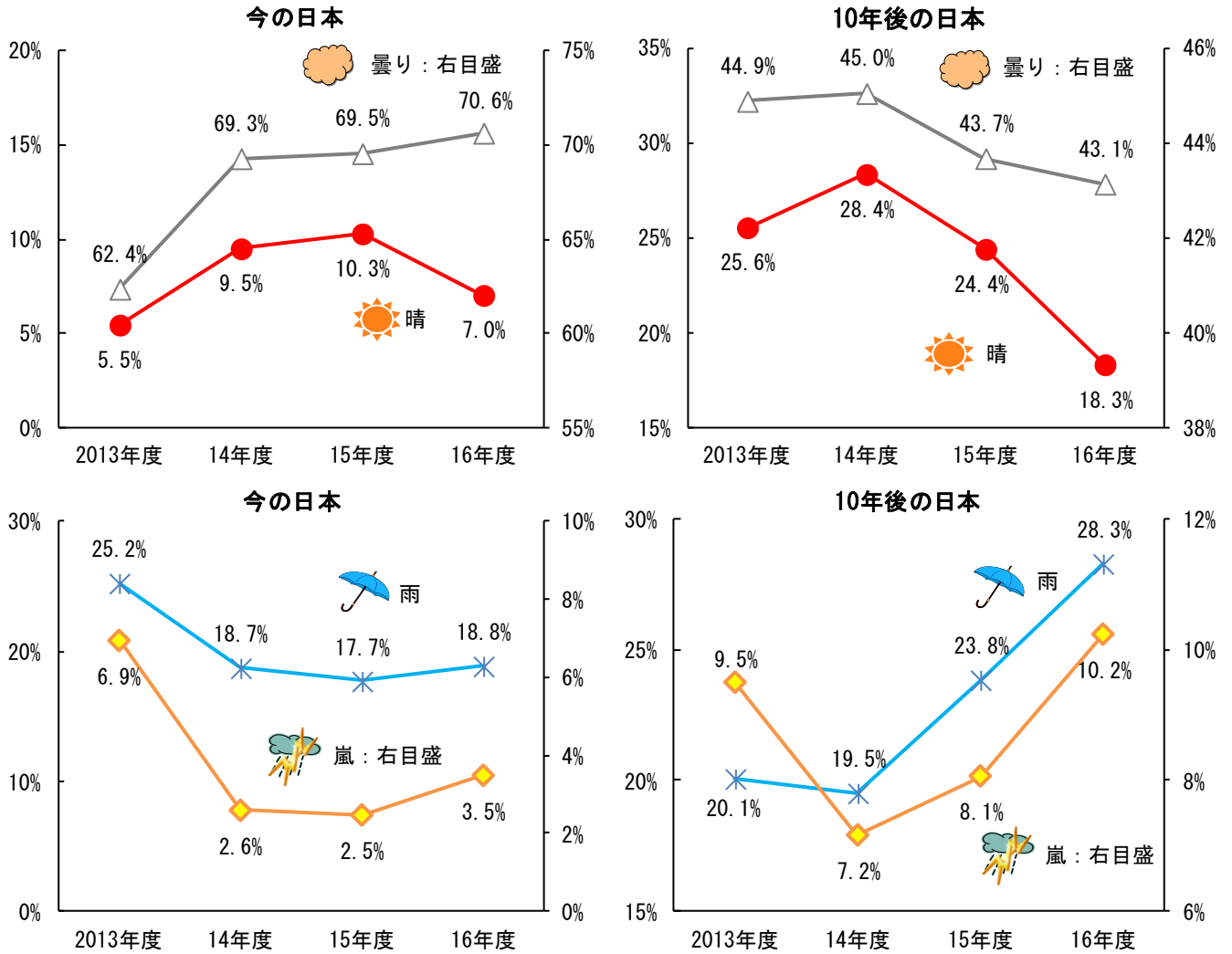
図表 28. 日本の状態を天気で表すと？



ここで、本設問について、2013年度以降の結果の推移を見てみる(図表29)。すると、今の日本の状況について、「晴」の割合がピークアウトしている一方、「曇り」や「雨」、「嵐」の割合が上昇している。2012年末に第2次安倍政権が発足し、2013年の年明け以降、アベノミクスが本格的に始動したわけであるが、ここにきて人々のマインドに与える効果も薄らいできている可能性がある。

また、10年後については、「晴」の割合が低下傾向にあり、今年度は初めて20%を切った。他方、「雨」や「嵐」の上昇が続いており、日本経済の先行きに対する懸念は年々高まっている。国内景気が足踏み状態となる中、中国など新興国を中心とした海外景気の減速や日本銀行によるマイナス金利政策導入後の市場の混乱など、日常的にネガティブなニュースに触れる中、新入社員は日本の先行きに対して漠然とした不安を感じているのかもしれない。

図表 29. 日本の状態を天気で表わすと？（推移）

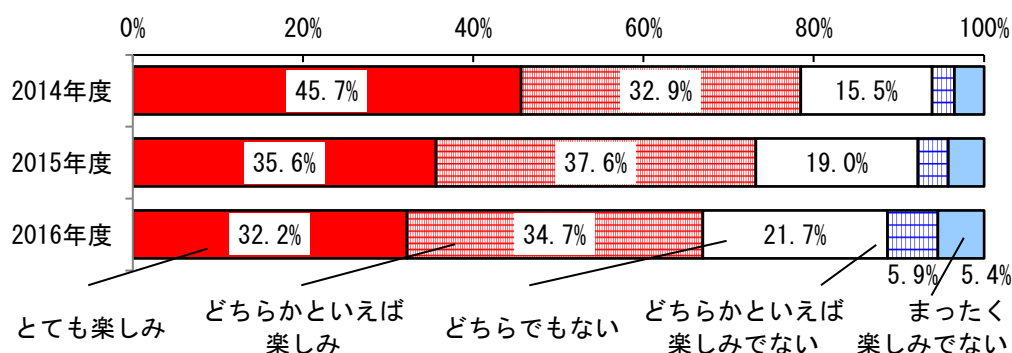


(2) 東京オリンピック開催について

東京オリンピック・パラリンピックの開催まで残すところあと4年となった。東京オリンピック開催についてどう思うか聞いたところ、「とても楽しみ」(32.2%)、「どちらかといえば楽しみ」(34.7%)と、開催を待ちわびている人は全体の7割弱にも上った(図表30)。

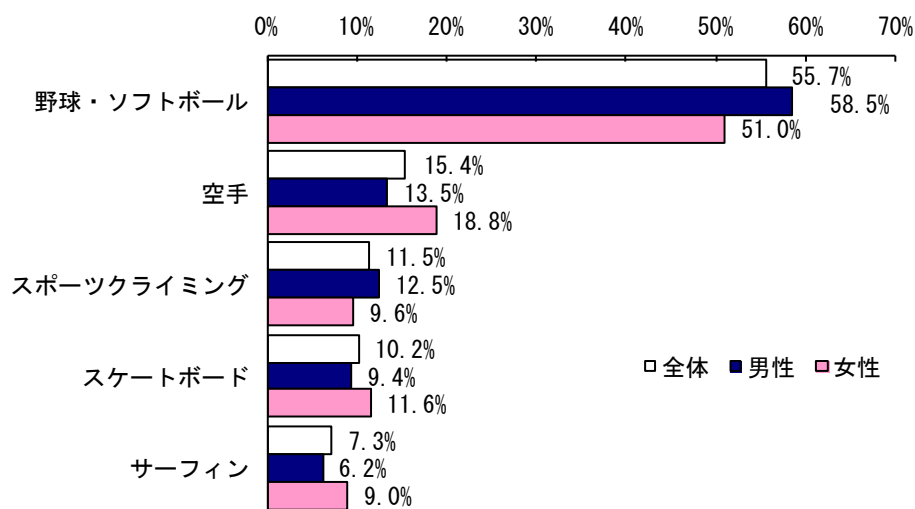
もっとも、前年の結果と比べると、「とても楽しみ」や「どちらかといえば楽しみ」など前向きな回答の比率は低下傾向にある。東京オリンピック開催が決まったのは2013年9月であるが、その直後と比べるとオリンピックに対する関心は薄らいでいるようだ。

図表 30. 東京オリンピック開催について



また、東京オリンピックでは、「野球・ソフトボール」、「空手」、「スポーツクライミング」、「スケートボード」、「サーフィン」の5競技について、追加が検討されている。最終的には本年8月の国際オリンピック(IOC)委員会総会で決定される予定であるが、新入社員に対して、5つのうち最も採用されてほしい種目を聞いたところ、「野球」(55.7%)が最も人気を集めた(図表31)。また、女性の「空手」人気も比較的高かった。

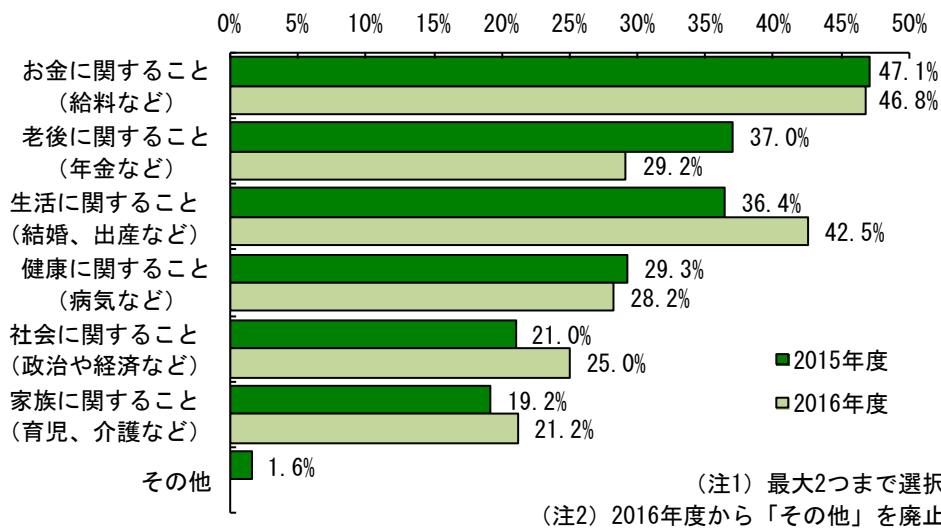
図表 31. 東京オリンピックで正式採用が期待される種目



(3) 将来への不安

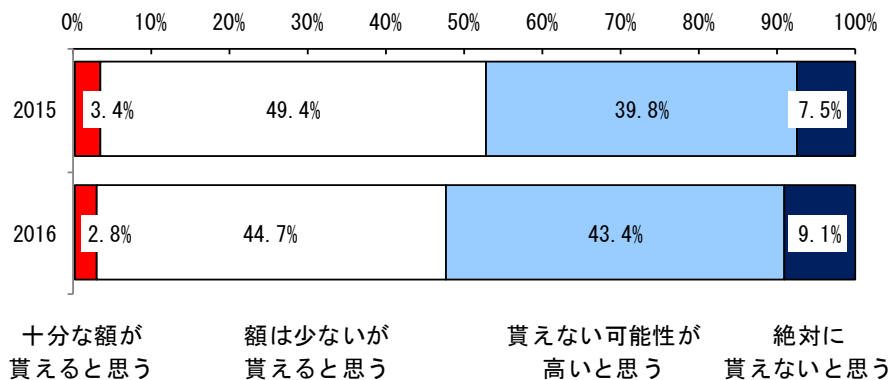
今後、それぞれが多様なライフコースをたどると考えられる新入社員であるが、彼ら彼女たちが現時点で将来に対して不安に思っていることは何だろうか。今回は、「お金（給料）」、「老後（年金）」、「健康（病気）」、「生活（結婚・出産）」、「家族（育児・介護）」、「社会（政治・経済）」という6つのキーワードの中から特に不安に思うことについて、最大2つまで選んでもらった。結果を見ると、前年と同様、最も多かったのは「お金に関すること」（46.8%）であった（図表32）。次に選ばれたのは「生活に関すること」（42.5%）で前年2位の「老後に関すること」（29.2%）を上回った。今年度の新入社員は老後という先の話よりも、結婚や出産といった目先のライフイベントに対してより大きな不安を抱いているようだ。

図表 32. 将来に関する不安



もっとも、前年に比べて順位を落としたとはいえ、老後に関する不安の割合も引き続き高い。図表33は、将来、自分たちの世代が年金を貰えるかについて聞いたものであるが、「貰えない可能性が高いと思う」、「絶対に貰えないと思う」といった年金の将来に対する悲観的な見方は、実は前年よりも増えている。今年度の新入社員は目先の生活に対する不安を高めているとはいえ、老後に関する不安がやわらいでいるわけではない。

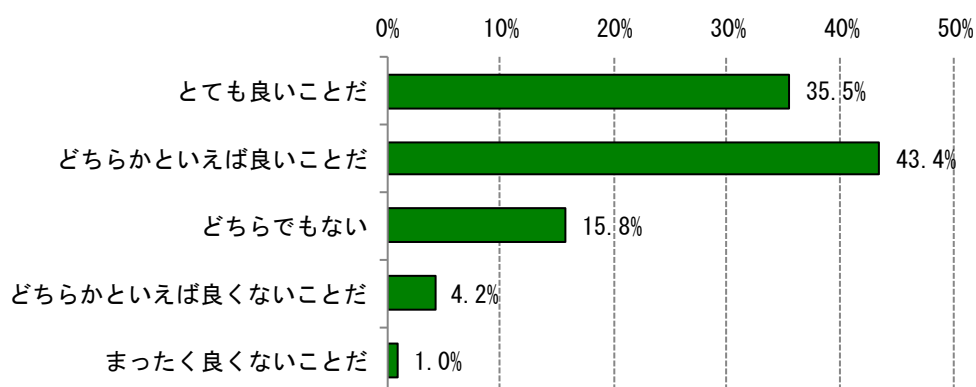
図表 33. 年金について



(4) その他のトピック

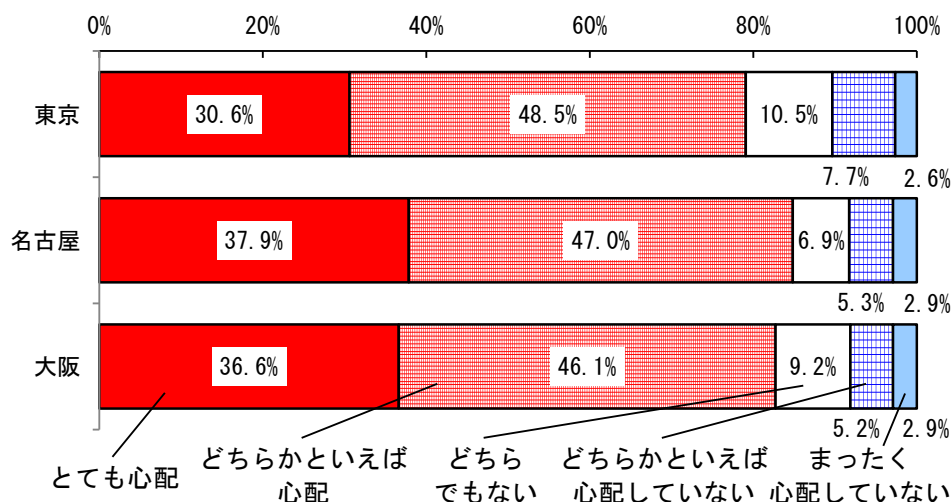
近年、日本を訪れる外国人の数が急増している。同時にインバウンド消費（訪日外国人消費）も盛り上がりを見せており、日本経済にとっては久々の明るい話題となっている。新入社員に訪日外国人の増加について感想を聞いたところ、「とても良いことだ」（35.5%）、「どちらかといえば良いことだ」（43.4%）と前向きな評価が大多数を占めた（図表 34）。世の中では、訪日外国人の増加による治安の悪化などを懸念する声もあるが、そうしたデメリットよりもメリットの方が大きいと感じているようだ。

図表 34. 訪日外国人が増加していることについて



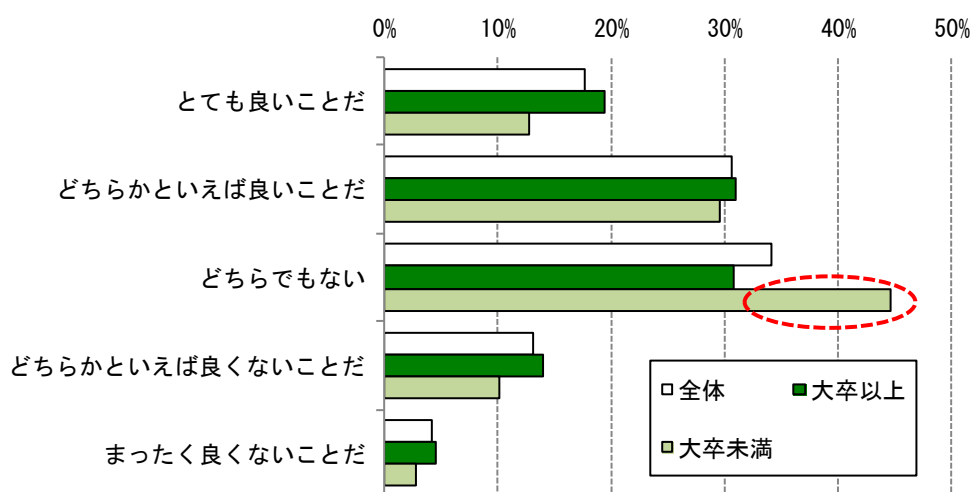
2016 年は東日本大震災から 5 年という節目に当たる年である。そこで新入社員に対して将来、地震が起こる可能性についてどの程度心配しているか聞いたところ、東京、名古屋、大阪ともに「とても心配」、「どちらかといえば心配」と、地震の発生を懸念する声が大半を占めた（図表 35）。特に南海トラフ大地震の発生が懸念されている東海地域や、阪神淡路大震災を経験した関西では、「とても心配している」の割合が東京よりも高くなっている。なお、本アンケート調査は熊本大地震が発生する前に行われたものであることに注意されたい。

図表 35. 将来、地震が起こる可能性について



先般、公職選挙法が改正され、本年6月19日から選挙権が与えられる年齢がこれまでの「20歳以上」から「18歳以上」にまで引き下げられることになっている。これに関して新入社員にどう思うか聞いたところ、「とても良いことだ」(17.8%)、「どちらかといえば良いことだ」(30.7%)と前向きに評価する声が約半数に上った一方、「どちらでもない」(34.2%)と評価を避けた人も多かった(図表36)。特に今回の選挙権引き下げの対象者が多く含まれるとみられる大卒未満の新入社員では、約4割が「どちらでもない」を選んでいる。

図表 36. 選挙権が20歳以上から18歳以上に引き下げられることについて



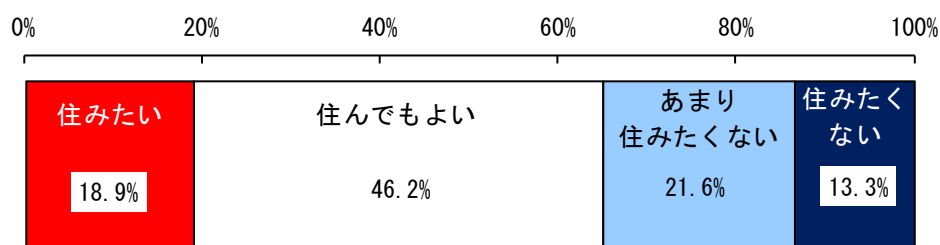
3. 暮らしに関すること

(1) 地方移住について

2015年の総務省「国勢調査」において日本の総人口が調査開始以降初めて減少に転じるなど、日本は本格的な人口減少社会に突入している。特に地方では都市部への人口流出も続いており、政府は地方創生の促進に一層の力を注いでいる。

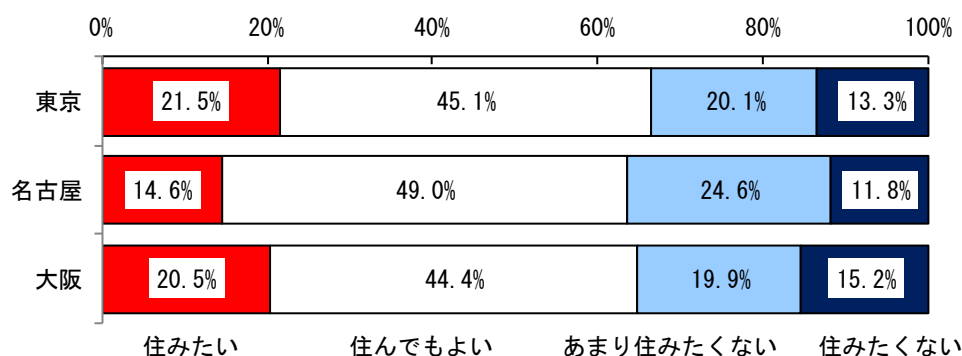
こうした状況を踏まえ、新入社員に、「将来、地方（いわゆる“田舎”のような場所）に住みたいか」聞いたところ、「住みたい」（18.9%）、「住んでもよい」（46.2%）など前向きな回答が6割強に上った（図表37）。一方、「あまり住みたくない」（21.6%）、「住みたくない」（13.3%）など否定的な意見は3割程度にとどまっており、地方移住に対しては比較的前向きであると言える。

図表 37. 地方移住に対する希望



また、東京、名古屋、大阪それぞれについて見ると、東京と大阪では「住みたい」と答えた割合が名古屋と比べて高くなっている（図表38）。東京や大阪では周辺地域からの流入者も多く、いずれは地元に戻りたいと考える人が少なからずいるとみられるほか、都会の喧騒から離れてのんびりとした暮らしをしたいと思う人が多いのかもしれない。

図表 38. 地方移住に対する希望（地域別）

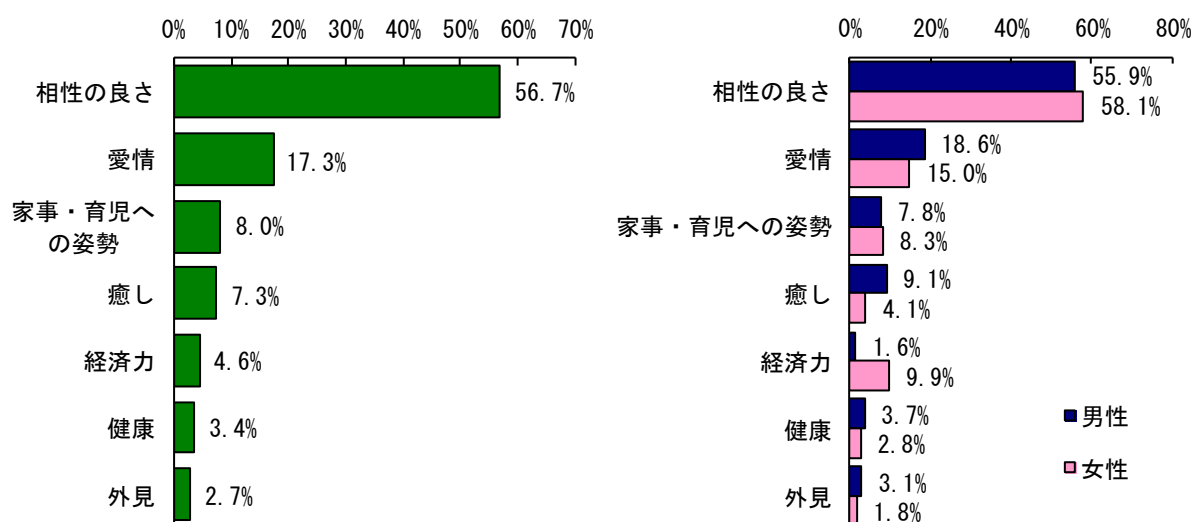


(2) 結婚と仕事について

近年、日本では晩婚化や未婚化が進み、人口減少に直面する中では大きな懸念材料となっている。また、女性の社会進出が進む中で、結婚後の仕事のあり方についても徐々に変わりつつあると考えられる。そこで、新入社員に結婚と仕事についてどう考えているのか聞いてみた。

まず、結婚相手に最も求めるものは何か尋ねたところ、「相性の良さ」(56.7%)が他の選択肢を大きく引き離して多数の支持を集め、次いで「愛情」(17.3%)となっている(図表39)。また、男女別に見ると、男性では「癒し」の回答割合が多いのに対し、女性では結婚相手に「経済力」を求める傾向がある。

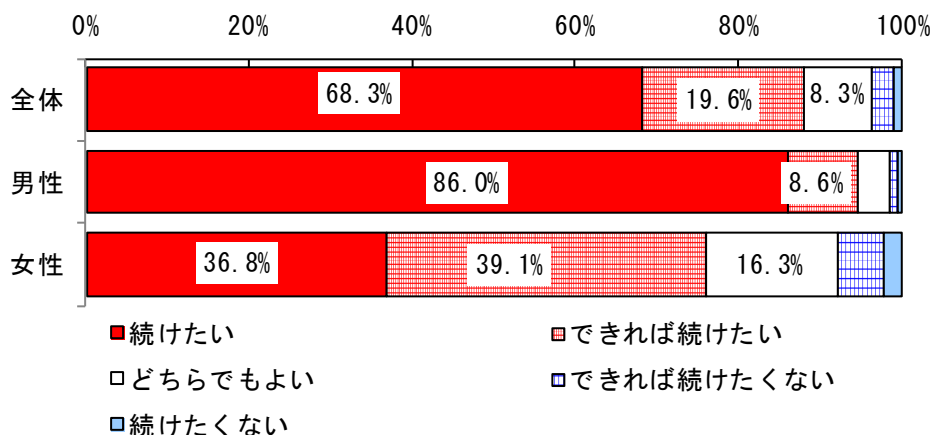
図表 39. 結婚相手に求めるもの



次に結婚後に仕事を続けることについて、新入社員に希望を聞いたところ、「続けたい」(68.3%)、「できれば続けたい」(19.6%)など結婚後も今の仕事を続けることに積極的な回答が多く、「できれば続けたくない」(2.7%)、「続けたくない」(1.1%)など否定的な意見はごく少数であった(図表40)。ただし、女性の場合、「できれば続けたい」の割合が男性と比べて圧倒的に多く、パートナーなど周囲の理解と協力が得られることが前提という考えが読み取れる。

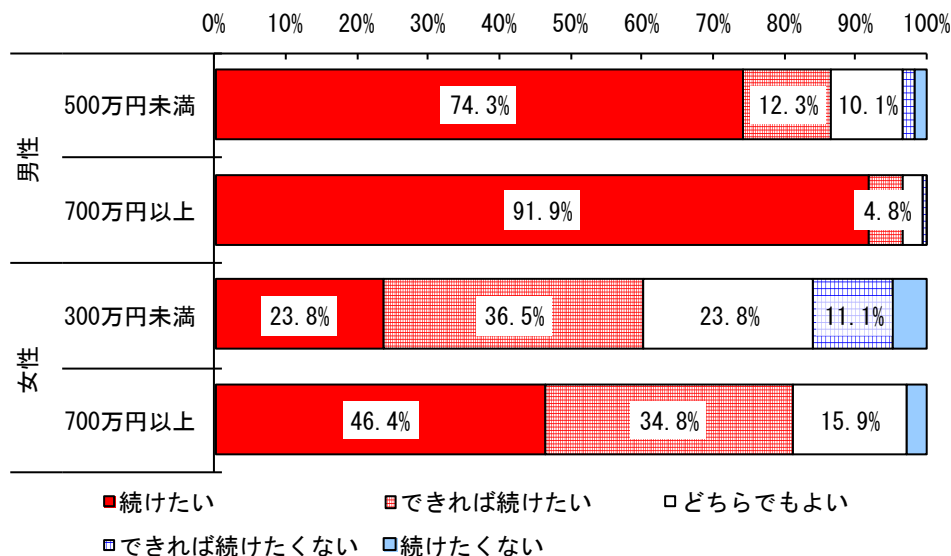
また、多くの場合、夫婦のどちらか一方が働くよりも、共働きの方が世帯収入は増える。そこで、予想最高年収が高いグループ(男女とも700万円以上)と低いグループ(男性500万円未満、女性300万円未満)に分けて、回答を見てみた(図表41)。すると、男性も女性も、将来的に自らの年収が高まると考えるグループほど仕事を「続けたい」と答える割合が高くなった。もっとも、予想最高年収が700万円以上の女性であってもパートナーの理解が得られることが前提と考える傾向が強いようだ。男性にはこうした傾向が見られないことから、「男は仕事、女は家庭」という旧来型の考え方が新入社員であっても深層心理にあるとみられ、政府が目指す女性活躍推進を阻害する要因となる可能性がある。

図表 40. 結婚後も仕事を続けたいか



図表 41. 結婚後も仕事を続けたいか（性別、予想最高年収別）

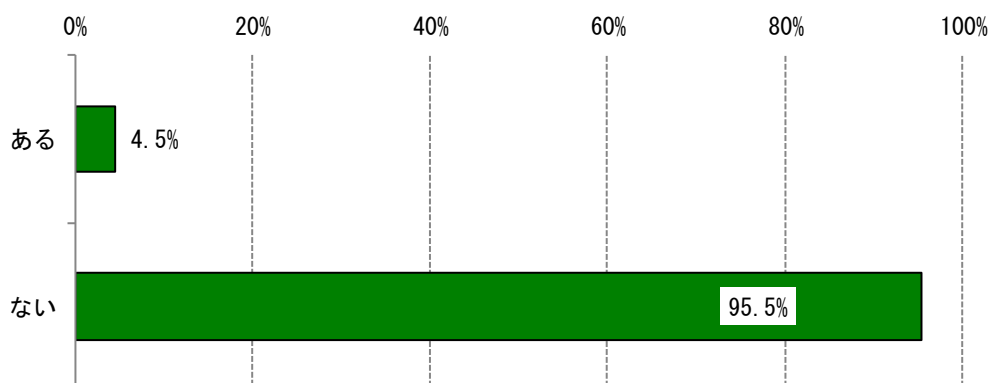
【予想最高年収】



(3) 投資について

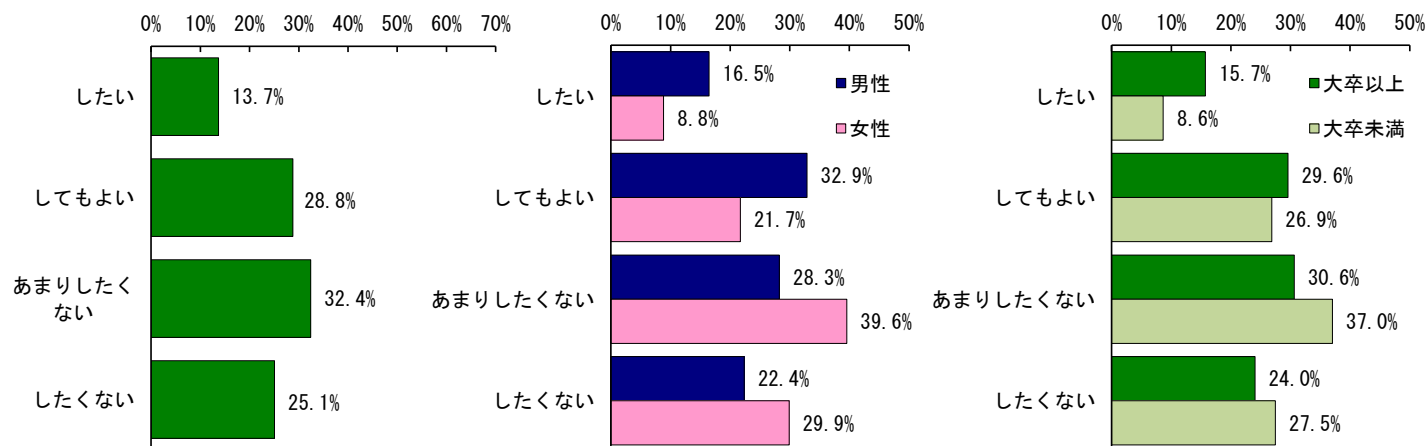
政府は貯蓄として眠る家計の金融資産を投資へと向けさせようとしており、最近では少額投資非課税制度のNISA（ニーサ）もスタートしている。もっとも、新入社員にこれまでの投資経験を聞いたところ、「ある」(4.5%)と答えた人はごく少数で、大半が「ない」(95.5%)となっている（図表 42）。

図表 42. これまで投資をしたことがあるか



そこで、これまで投資をしたことがない人に、将来、投資をしてみたいか聞いたところ、「したい」(13.7%)、「してもよい」(28.8%)など投資に前向きな回答は4割程度にとどまり、半数以上が「あまりしたくない」(32.4%)、「したくない」(25.1%)という消極的な回答が得られた（図表 43）。性別による違いも見られ、男性は「したい」、「してもよい」と答えた割合が女性と比べて高く、男性の方が投資に対して前向きな傾向が読み取れる。また、学歴別に見ると、「したい」、「してもよい」の割合は大卒以上の方が高く、「あまりしたくない」、「したくない」の割合は大卒未満の方が高くなっている。

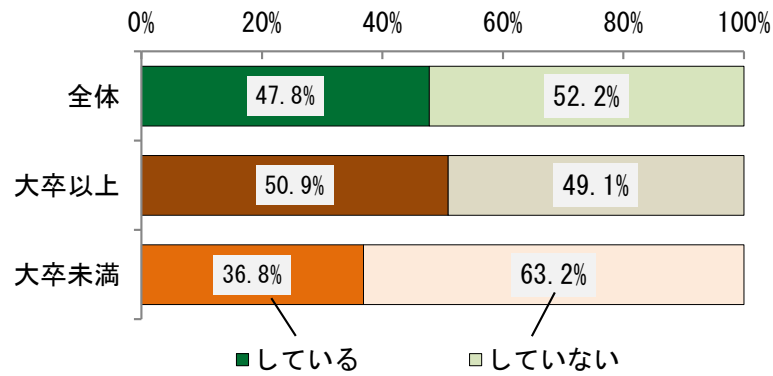
図表 43. 将来、投資をしてみたいか



(4) 自己啓発

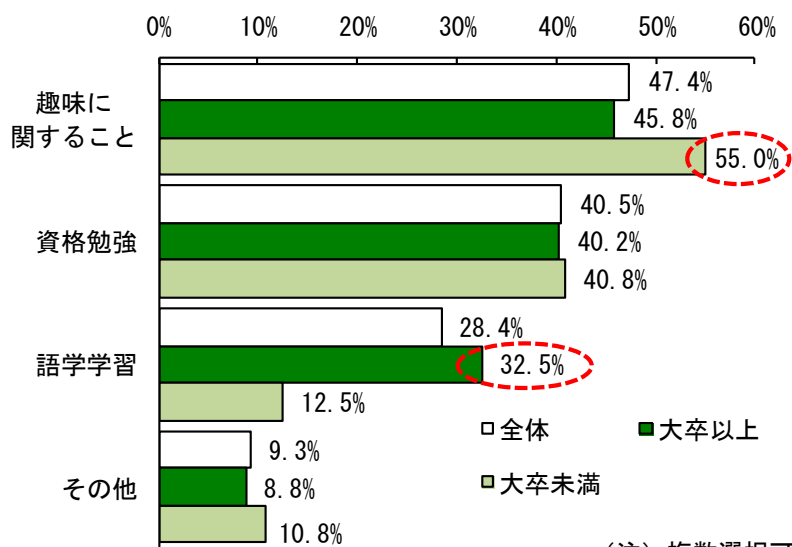
最後に、これから社会人として活躍が期待される新入社員であるが、半数以上が自分の能力向上のために何もしていないというやや心配な結果が得られた(図表44)。大卒以上の新入社員の半数以上は自己啓発のために何かしていると答えているが、大卒未満では4割にも満たない。

図表 44. 自分の能力向上のために何かしているか？



他方、能力向上のために何かしているという人に対して、具体的に何を行っているかを聞くと、最も多かったのは「趣味に関すること」で、次いで「資格勉強」となった(図表45)。大卒未満で能力向上のために何かしていると答えた者の半数以上は趣味に関することであった。また、大卒以上に限れば「語学学習」も比較的多く見られた。なお、1割近くを占めた「その他」の具体例としては、大半が読書(新聞も含む)となっている。

図表 45. 自分の能力向上のためにしていること



参考図表 1. アンケート票

本アンケートは、無記名となっております。お名前の記入は不要です。

下記内容をご確認いただき、ご同意の上ご記入ください。

アンケート結果は、今後のセミナー運営・企画の際に参考にさせていただきます。また、新入社員の方々の全体傾向を把握することを目的としたものであり、特定個人の情報を入手することを目的とするものではありません。集計結果に当社の分析を付して、当社刊行物・新聞等に掲載発表させて頂く場合があります。

お差し支えなければご記入をお願いいたします。該当する箇所には○をつけてください

性別

男性	女性
----	----

最終学歴

高校	高専	専門学校
短期大学	大学	大学院
その他（具体的に：_____）		

お勤め先の業種

製造業	製造業以外	分からない
-----	-------	-------

今回の研修のご感想

1. 当てはまるものひとつに○をつけてください

大変よかった
よかった
まあまあ
期待外れ

2. その他のご感想をご自由にお書きください

会社、仕事、働き方、上司に関するあなたのお考えを教えてください

1. ①～⑧の質問について、**近いと思われる方**に○をつけてください

①	出世したい	出世しなくても好きな仕事を楽しみたい
②	定年まで同じ会社で働きたい	自分にもっとあった会社があれば転職したい
③	目標を与えられ、達成に向けてがんばりたい	目標はプレッシャーになるのでない方がよい
④	緊張感をもって厳しく指導してほしい	やさしくていねいに教えてほしい
⑤	やたらやただけ給料を上げてほしい	同期の中ではあまり差をつけなくてほしい
⑥	残業が多くても給料が増えるのだからよい	給料が増えなくても残業はない方がよい
⑦	幅広く色々な仕事をマスターしたい	一つの仕事に習熟してエキスパートになりたい
⑧	上司や仲間と時々飲みに行きたい	会社の人と飲みに行くのは気がすまない

2. 会社に望むことは何ですか？ 次のA～Hの8つの選択肢から最も望むことを3つ順に選んでください

A 自分の能力の発揮・向上ができる	E 人間関係がよい
B 私生活に干渉されない	F 地位が上がる
C 評価・処遇を公平にしてくれる	G 仕事場・休憩室などが快適
D 給料が増える	H 残業がない・休日が增える



【回答欄】

1番目：
2番目：
3番目：

3. 仕事・職場生活に関して不安なことは何ですか？ 大きな不安2つに○をつけてください。※不安のない方は回答不要です

仕事が自分にあっているか、うまくできるか	上司・先輩・同僚との人間関係
環境の変化に心身がうまく対応できるか	自分の時間が少なくなり好きなことができない
給料でこれまで通りの生活ができるか	リストラ・解雇

4. 社会人としての自分に、自信のあるもの・欠けているものは何だと思いますか？

自信のあるもの2つに○、欠けているもの2つに×を、それぞれつけてください

「創造力」：新しいことを考えさせる	「忍耐力」：広く深くものごとを考えられる
「集中力」：気が散らず一心に取り組める	「忍耐力」：つらく面倒なことでも耐えられる
「積極性」：率先して意見し、すぐ行動できる	「責任感」：まかされたことをやり遂げられる
「順応力」：新しい環境や仕事にすぐになじめる	「協調性」：まわりの人と衝突せず協力できる
「体力」：たくさんの仕事をこなせる	「社交性」：自ら進んで色々な人と交流できる
「対人対応力」：適切にコミュニケーションがとれる	

5. 将来、どれ位の役職にまで出世したいと思いますか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

社長	役員	部長	課長	役職にはこだわらない
----	----	----	----	------------

6A. 理想の上司はどのタイプですか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

「カリスマ型」：シビアな面もあるが、天性の才能を持つカリスマ的存在	「寛容型」：情に流されやすい面もあるが、寛容的で忍耐強い人格者
「論理型」：柔軟性に乏しい面もあるが、論理的で責任感が強い	「平凡型」：目立った長所はないが、特に短所もなく常識的
「情熱型」：やりすぎる面もあるが、バイタリティに富み、何事にも熱心	「調整型」：八方美人な面もあるが、順応性が高く、調整や交渉が得意
「アイデア型」：わがままな面もあるが、自由奔放でユーモラスなアイデアマン	

B. 理想の上司を人間以外の動物に例えると何ですか？ ご自由にお答えください(理由やイメージもあればお書きください)

就職活動に関して教えてください

7. 就職活動はどうでしたか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

とても大変だった	大変だった	どちらでもなかった	楽だった	とても楽だった
----------	-------	-----------	------	---------

8. 最初の内定が出た時期はいつ頃でしたか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

15年3月末まで	15年4～8月頃	15年9～10月頃	15年11～12月頃	16年以降
----------	----------	-----------	------------	-------

9. 就職活動の際、「ブラック企業」ではないかという点を気にしましたか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

気にした	少しは気にした	あまり気にしなかった	気にしなかった
------	---------	------------	---------

10. 何を基準に会社を選びましたか？ 当てはまるもの2つに○をつけてください

仕事のやりがいがある	雰囲気が良い
業績が安定している	給料が良い
能力が活かせる	社会に貢献している
実家から通勤できる、実家に近い	その他（具体的に：）

経済・社会に関するあなたのお考えを教えてください

11. 今の日本の状態を天気で表わすと、どのような状態だと思いますか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

(晴れ)	(曇り)	(雨)	(嵐)
------	------	-----	-----

12. 10年後の日本の状態を天気で表わすと、どのような状態だと思いますか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

(晴れ)	(曇り)	(雨)	(嵐)
------	------	-----	-----

13. 将来に関して不安なことは何ですか？ 大きな不安2つに○をつけてください。※不安のない方は回答不要です

給料などお金に関すること	年金など老後に関すること
病気など健康に関すること	結婚、出産など生活に関すること
育児、介護など家族に関すること	政治や経済など社会に関すること

14. 将来、自分たちの世代は年金を貰えると思いますか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

十分な額が貰える	額は少ないが貰える	貰えない可能性が高い	絶対に貰えない
----------	-----------	------------	---------

15. 近年、日本を訪れる外国人の数が増えていますが、どう思いますか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

とても良いことだ	どちらかといえば良いことだ	どちらでもない	どちらかといえば良くないことだ	まったく良くないことだ
----------	---------------	---------	-----------------	-------------

16. 将来、大地震が起こる可能性について、どの程度心配していますか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

とても心配している	どちらかといえば心配している	どちらでもない	どちらかといえば心配していない	まったく心配していない
-----------	----------------	---------	-----------------	-------------

17. 選挙権が18歳以上に引き下げられますが、どう思いますか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

とても良いことだ	どちらかといえば良いことだ	どちらでもない	どちらかといえば良くないことだ	まったく良くないことだ
----------	---------------	---------	-----------------	-------------

2020年東京オリンピック開催に関するあなたのお考えを教えてください

18. オリンピック開催は楽しみですか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

とても楽しみ	どちらかといえば楽しみ	どちらでもない	どちらかといえば楽しみでない	まったく楽しみでない
--------	-------------	---------	----------------	------------

19. 東京オリンピックでは新しい種目として以下の5競技が提案されています。

その中で最も正式採用されてほしい競技は何ですか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

野球・ソフトボール	空手	スポーツクライミング	スケートボード	サーフィン
-----------	----	------------	---------	-------

その他に関して教えてください

20. 自分の能力向上のために何かしていますか？

している	していない
------	-------



「している」と答えた方は、具体的に何ですか？

当てはまるものすべてに○をつけてください

語学学習（英会話、TOEIC、中国語会話など）
資格勉強（簿記、貿易実務など）※語学系は除く
趣味に関すること（お稽古事など）
その他（具体的に：）

21. 30歳で自分の年収はいくらくらいになると思いますか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

300万円未満	300～500万円	500～700万円	700～1000万円	1000万円以上
---------	-----------	-----------	------------	----------

22. 将来、自分の年収は最高でいくらくらいになると思いますか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

300万円未満	300～500万円	500～700万円	700～1000万円	1000万円以上
---------	-----------	-----------	------------	----------

23. 初めてのボーナスは誰と、もしくは誰のために使う予定ですか？ 当てはまるものすべてに○をつけてください

自分	両親	祖父母	兄弟姉妹	友達	パートナー（配偶者・恋人など）	ペット
----	----	-----	------	----	-----------------	-----

24. 初めてのボーナスは何に使う予定ですか？ 当てはまるものすべてに○をつけてください

旅行	食事	電気機器	宝飾品（時計・アクセサリなど）	洋服・靴	借入金返済（奨学金など）
趣味・娯楽品（書籍・映画・車など）	ペット・植物関係	習い事	投資（株・FX・不動産など）	貯金	

25A. これまで投資（株・FX・不動産など）をしたことがありますか？

ある	ない
----	----

B. 「ない」に○をつけた方に質問です。将来、投資をしてみたいですか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

したい	してもよい	あまりしたくない	したくない
-----	-------	----------	-------

26. 将来、海外勤務をしてみたいと思いますか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

したい	してもよい	あまりしたくない	したくない	場所による（具体例：）
-----	-------	----------	-------	-------------

27. 将来、地方（いわゆる“田舎”のような場所）に住みたいと思いますか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

住みたい	住んでもよい	あまり住みたくない	住みたくない
------	--------	-----------	--------

28. 結婚後も仕事を続けたいと思いますか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

続けたい	できれば続けたい	どちらでもよい	できれば続けたくない	続けたくない
------	----------	---------	------------	--------

29. 結婚相手に最も求めるものは何ですか？ 当てはまるものひとつに○をつけてください

愛情	相性の良さ（性格・価値観など）	家事・育児への姿勢	経済力	癒し
健康	外見（容姿など）			

【回答欄】

①働いてもよい国・地域

②働きたくない国・地域

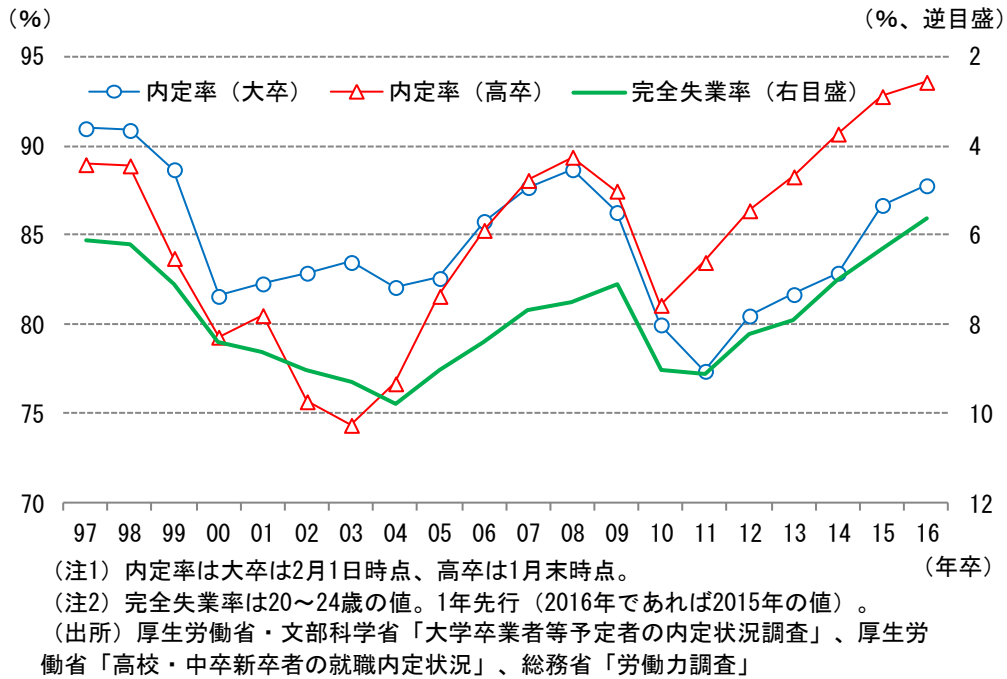
アンケートは以上となります。ご協力いただき、ありがとうございました。

参考図表 2. 新入社員の育ってきた環境

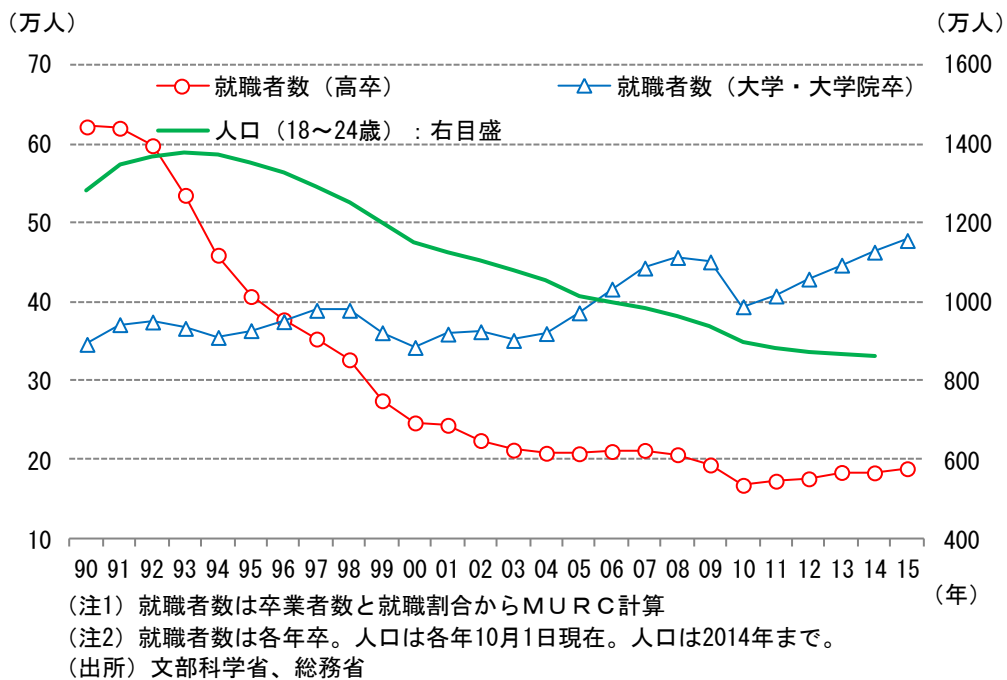
		日本のできごと	世界のできごと	【歴代首相】		
1993 (平成5)	0歳	誕生	皇太子殿下・雅子妃ご成婚 自由民主党を与党とする「55年体制」が崩壊 北海道南西沖（奥尻島）地震が発生 Jリーグが開幕	12ヶ国で欧州単一市場が始動 アメリカ・クリントン（民主党）大統領就任	宮澤喜一 (1991/11/5~)	
1994 (平成6)	1歳		郵便料金が値上げ（封書：62→80円、はがき：41→50円） 関西国際空港（大阪府）が開港 バブルの象徴だったジュリアナ東京が閉店	北米自由貿易協定（NAFTA）が発効 北朝鮮の金正日国家主席が死去	細川護熙 (1993/8/9~)	
1995 (平成7)	2歳		兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）が発生 オウム真理教による地下鉄サリン事件が発生	世界貿易機関（WTO）が設立	羽田孜 (1994/4/28~)	
1996 (平成8)	3歳		○157（病原性大腸菌）が流行し食中毒が多発 海の日（7月20日）が施行	世界初のクローン羊「ドリー」が誕生 ●アトランタ・オリンピック●	村山富市 (1994/6/30~)	
1997 (平成9)	4歳		消費税率が3%から5%へと引上げ 神戸連続児童殺傷（酒鬼薔薇聖斗）事件が発生 北海道拓殖銀行が破綻 山一證券が自主廃業 京都議定書が採択	香港がイギリスから中国へ返還 タイの変動相場制導入をきっかけにアジア通貨危機が発生 ダイアナ元イギリス皇太子妃が事故死	橋本龍太郎 (1996/1/11~)	
1998 (平成10)	5歳		日本長期信用銀行および日本債券信用銀行が公的管理下へ 初めてコンシューマー向けに設計されたWindows 98（日本語版）が発売 郵便番号が5桁から7桁に	FIFAワールドカップ・フランス大会（日本代表が初出場） ○長野・冬季オリンピック○	小淵恵三 (1998/7/30~)	
1999 (平成11)	6歳		子どもや高齢者がいる世帯に対し一人2万円の「地域振興券」が配布 日本銀行がゼロ金利政策を実施	マカオがポルトガルから中国へ返還		
2000 (平成12)	7歳	小学生	小淵恵三氏が総理在任中に死去、内閣総辞職 いわゆる「ハッピーマンデー制度」によって一部の国民の休日が月曜日に移行 少年法等の一部改正され、刑事処分の可能な年齢が16歳から14歳へと引下げ 二千円札が発行開始	森喜朗 (2000/4/5~)		
2001 (平成13)	8歳		ユニバーサル・スタジオ・ジャパンおよび東京ディズニーシーが開園 敬宮愛子内親王殿下ご誕生	アメリカ・ブッシュ（共和党）大統領就任 アメリカで同時多発テロ事件が発生（「9.11テロ」） アメリカがアフガニスタンに侵攻	小泉純一郎 (2001/4/26~)	
2002 (平成14)	9歳		完全学校週5日制、いわゆる「ゆとり教育」が開始 日韓共同によるFIFAワールドカップが開催	欧州連合の加盟12カ国で単一通貨ユーロの流通が開始		
2003 (平成15)	10歳		りそな銀行に対して公的資金の注入 東海道新幹線・品川駅が開業 六本木ヒルズがグランドオープン	胡錦濤氏が中国国家主席に就任 アメリカによるイラク侵攻が開始（イラク戦争） 重症急性呼吸器症候群（SARS）が世界的に流行		
2004 (平成16)	11歳		千円、五千円、一万円札が改刷 アメリカでの狂牛病発生に伴い米国産牛肉が輸入停止 消費税の内税（総額）表示が義務化 政治家の年金未納問題が相次ぐ	インドネシア・スマトラ島沖地震が発生 ●アテネ・オリンピック●		
2005 (平成17)	12歳		愛知県で日本国際博覧会「愛・地球博」が開幕 中部国際空港（セントレア）が開港 個人情報保護法が全面施行 総人口が初めて減少 （減少傾向に入るのは09年）	イギリス・ロンドンで地下鉄等の同時爆破テロ事件が発生 アメリカにハリケーン「カトリーナ」が上陸		
2006 (平成18)	13歳		小泉純一郎氏の任期満了に伴い、（第1次）安倍政権が発足 日本銀行がゼロ金利政策を解除 いわゆる「ライブドア・ショック」が発生	第1回WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）開催 （日本代表が優勝）	安倍晋三 (2006/9/26~)	
2007 (平成19)	14歳	中学生	「みどりの日」を4月29日から5月4日へ変更、4月29日は「昭和の日」に 郵政民営化がスタート 第1回東京マラソンが開催	アメリカでサブプライムローン問題が顕在化 アップル社「iPhone（初代）」がアメリカで発売	福田康夫 (2007/9/26~)	
2008 (平成20)	15歳		未成年者の喫煙防止対策の一環として「taspo（タスポ）」が開始 景気の急速な悪化を受けて、政府・日本銀行が各種緊急対応	原油価格が急騰し、初めて\$100/バレルを超える 世界同時株安が進む中、「リーマン・ショック」が発生 ●北京・オリンピック●	麻生太郎 (2008/9/24~)	
2009 (平成21)	16歳		一人1万2千円（子どもや高齢者は一人2万円）の「定額給付金」が支給 衆議院議員総選挙で民主党が圧勝し（「政権交代」）、鳩山政権が発足 裁判員制度が開始	バラク・オバマ（民主党）大統領就任（初の黒人） 新型インフルエンザが世界的に流行	鳩山由紀夫 (2009/9/16~)	
2010 (平成22)	17歳	高校生	参議院議員通常選挙で与党（民主党）が過半数に届かず「ねじれ国会」に 内閣府に行政刷新会議が設置され、いわゆる「事業仕分け」が開始 急速な円高の進行を受けて、6年半ぶりに外国為替平衡操作（為替介入）が実施 尖閣諸島付近で海上保安庁の巡視船と中国漁船が衝突		菅直人 (2010/6/8~)	
2011 (平成23)	18歳		東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）とそれに伴う福島原子力発電所の事故が発生 アナログ放送が終了し地上デジタル放送へ完全移行（除く被災3県） 授業時数の増加などの新しい学習指導要領の実施開始（いわゆる「脱ゆとり」） アラブ諸国の民主化、いわゆる「アラブの春」が本格化		野田佳彦 (2011/9/2~)	
2012 (平成24)	19歳		衆議院議員総選挙で自民党が圧勝し与党に返り咲き、（第2次）安倍政権が発足 東京スカイツリーが開業	欧州において財政金融危機が発生し、ユーロ安が進む ●ロンドン・オリンピック●	安倍晋三 (2012/12/26~)	
2013 (平成25)	20歳	大学生	参議院議員通常選挙で自民党と公明党の連立与党が過半数を超え「ねじれ国会」が解消 2020年東京・オリンピックの誘致決定 富士山が世界遺産に登録決定	習近平氏が中国国家主席に就任		
2014 (平成26)	21歳		消費税率が5%から8%へと引上げ 日本一の高さのビル・あべのハルカスがグランドオープン	欧州中央銀行が主要国で初めてマイナス金利政策を導入		
2015 (平成27)	22歳		北陸新幹線、長野駅～金沢駅間の開通 日経平均株価が15年ぶりに2万円台を回復 2016年伊勢志摩サミットの開催決定 安全保障関連法案の成立	アメリカとキューバが54年ぶりに国交回復 ミラノ国際博覧会開催		
2016 (平成28)	23歳		就職			

（出所）各種資料をもとに、MURC作成

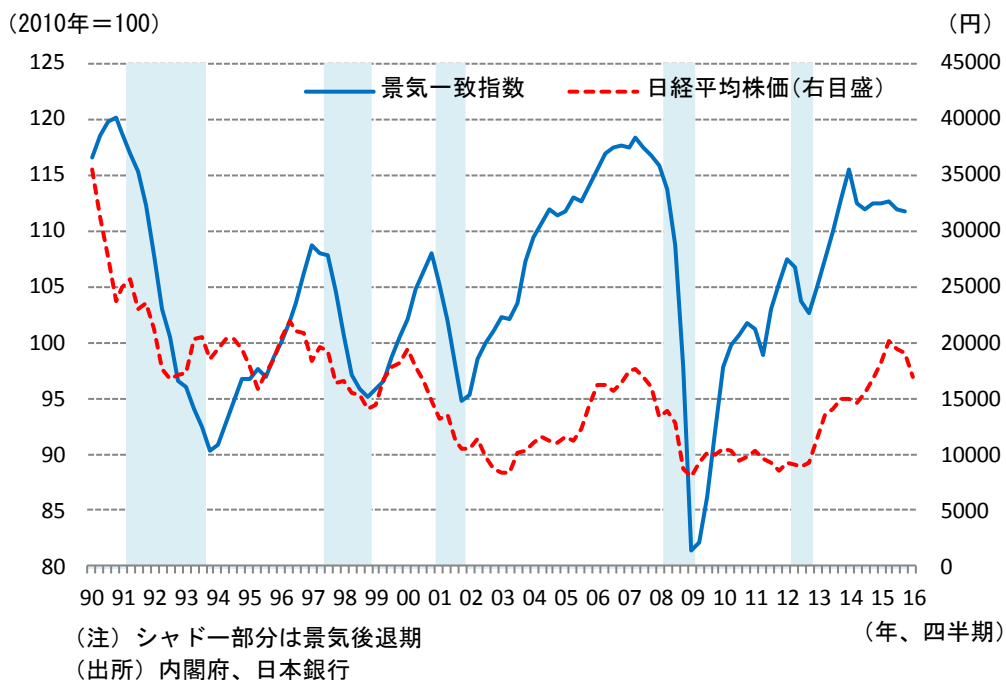
参考図表 3. 新入社員を取り巻く雇用環境



参考図表 4. 新入社員世代の人口と就職者数



参考図表 5. 国内景気の動向と日経平均株価



— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

経済レポート

2016(平成28)年度 新入社員意識調査アンケート結果【名古屋版】

～出世を望む男性社員、出世にこだわらない女性社員。理想の上司は「ライオン」～

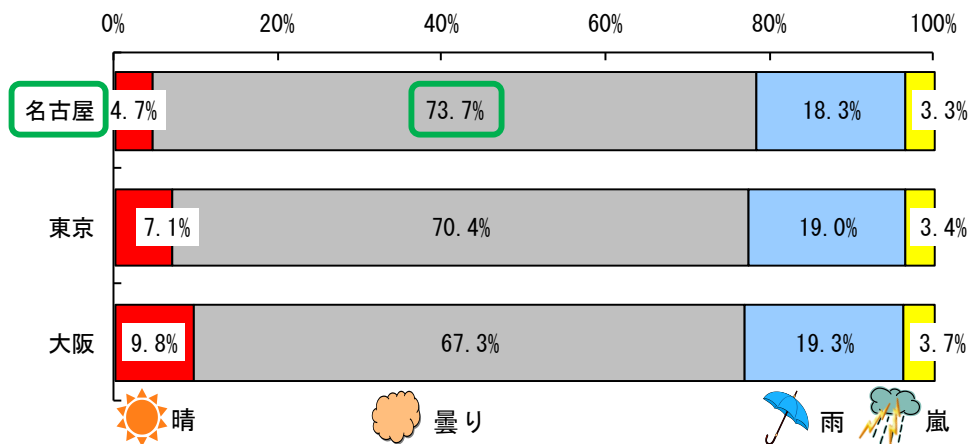
調査部 研究員 藤田 隼平

○日本の現状に対する見方は厳しい

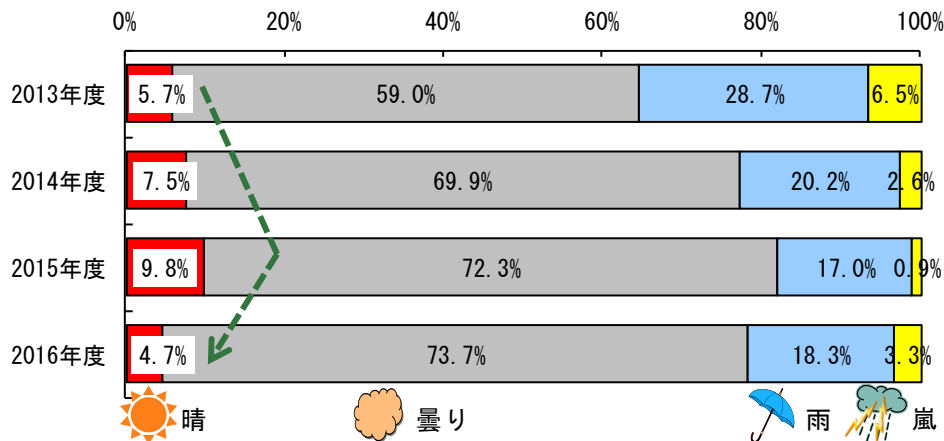
今の日本の状態をどう思うか新入社員に天気（晴、曇り、雨、嵐）で表してもらったところ、最も多く選ばれたのは「曇り」（73.7%）であった（図表1）。「晴」と答えた人の割合は4.7%にとどまり、東京（7.1%）や大阪（9.8%）よりも日本の現状に対する厳しい見方が示された。

さらに2013年度以降の推移を見ると、「晴」と答えた人の割合は最も低く、逆に「曇り」の割合は最も高くなっている（図表2）。「雨」や「嵐」の割合は13年度と比べてまだ低いものの、景気に弱さが見られる中で、新入社員の心理は悪化していると考えられる。

図表1. 今の日本の状態を天気で表すと？



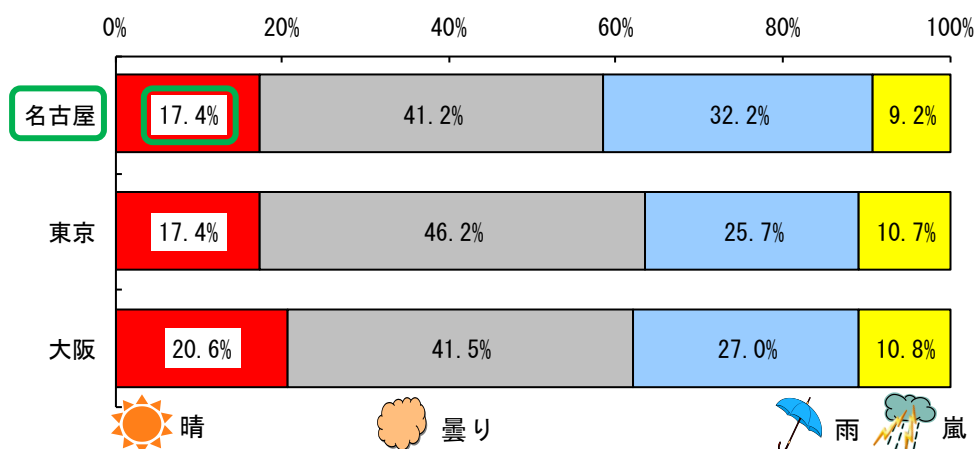
図表2. 今の日本の状態を天気で表すと？（名古屋地区推移）



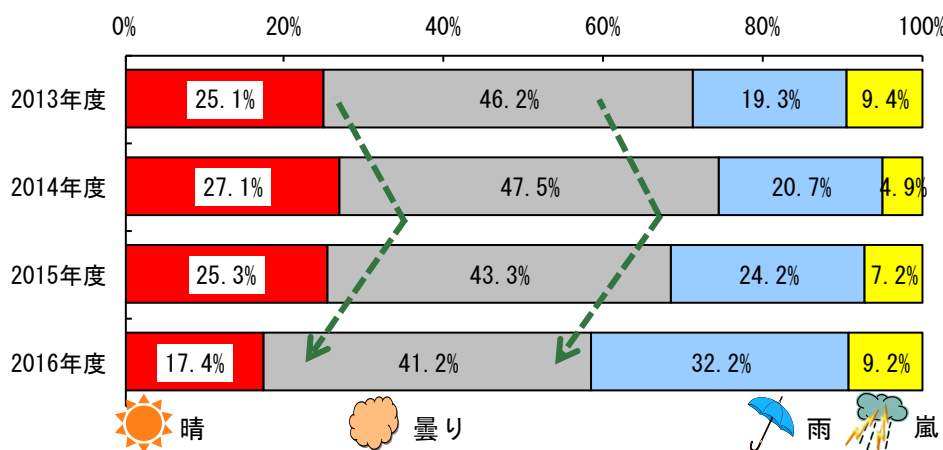
また、10年後の日本の状態についても尋ねたところ、引き続き「曇り」(41.2%)と答えた人が最も多かったものの、半数以下にまで減少している(図表3)。一方、「晴」(17.4%)と答えた人の割合は2割弱まで高まっているが、「雨」(32.2%)や「嵐」(9.2%)という回答がそれを上回って上昇しており、日本の先行きに対する見方は厳しいものとなっている。

さらに2013年度以降の推移を見ると、「晴」と答えた人の割合は最も低く、逆に「曇り」や「雨」は最も高くなっている(図表4)。日本の現状だけでなく、先行きに対して不安を抱く新入社員の数が徐々に増えていると考えられる。

図表3. 10年後の日本の状態を天気で表すと？



図表4. 10年後の日本の状態を天気で表すと？(名古屋地区推移)



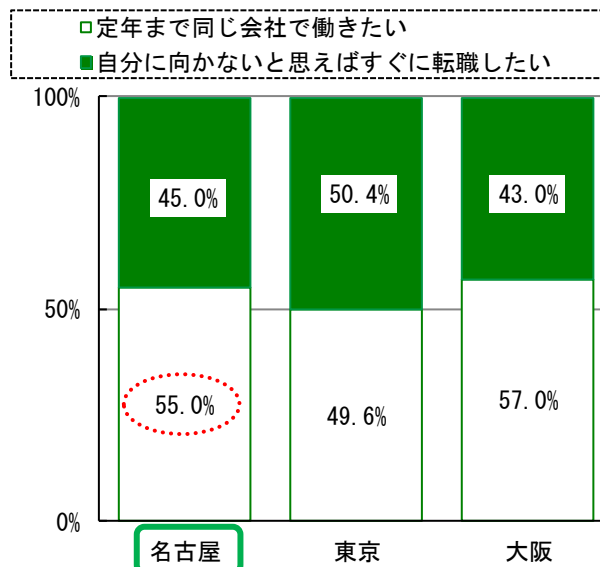
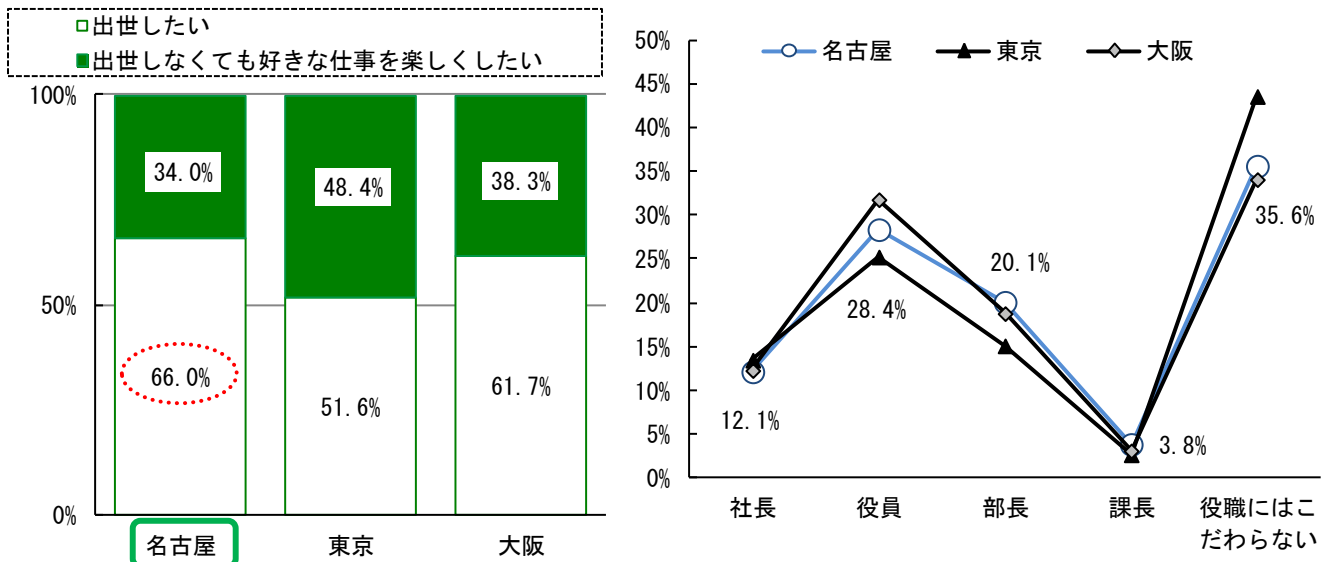
○名古屋男性は出世願望が強い

新入社員に「出世したい」か「出世しなくても好きな仕事を楽しくしたい」かどちらに近いかを聞いたところ、「出世したい」を選んだのは名古屋地区では 66.0% に上り、東京（51.6%）や大阪（61.7%）を上回った（図表 5 上段左）。

さらに具体的にどこまで出世したいかを尋ねたところ、「役職にこだわらない」が最も多かったものの、東京と比べて役職名を答える割合も高く、具体的な出世のイメージを比較的事務的持つことができていると考えられる（図表 5 上右）。

また、「定年まで同じ会社で働きたい」、「自分に向かないと思えばすぐに転職したい」のうちどちらに近いかも聞いたところ、名古屋地区では「定年まで同じ会社で働きたい」の回答割合が 55.0% と過半数を超えた（図表 5 中央下段）。今年度の名古屋地区の男性新入社員は出世願望が強いため、転職してステップアップを目指すよりも入社した会社で努力を重ね、最終的に上まで登り詰めたいたいと考える傾向があるようだ。

図表 5. 出世意欲（男性）



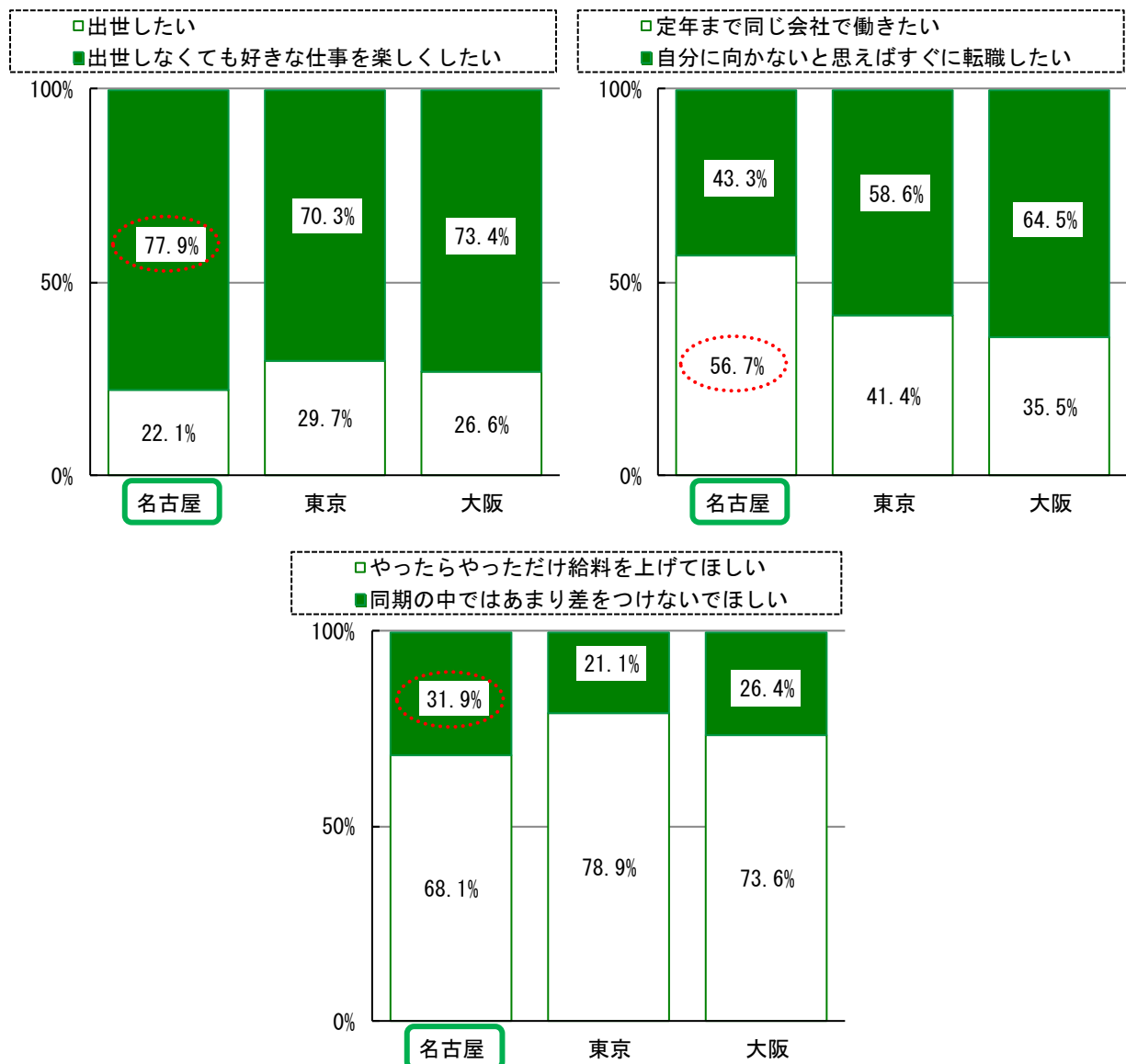
○出世にこだわらない名古屋女性

女性の新入社員にも男性と同じく出世願望について尋ねたところ、名古屋地区では「出世しなくても好きな仕事をしたい」が77.9%に上り、東京（70.3%）や大阪（73.4%）を上回った（図表6上段左上）。

また、「定年まで同じ会社で働きたい」、「自分に向かないと思えばすぐに転職したい」のうちどちらに近いかも聞いたところ、男性と同じく「定年まで同じ会社で働きたい」の割合が56.7%と半数を超えた（図表6上段右）。

さらに、「やったらやっただけ給料を上げてほしい」、「同期の中ではあまり差をつけないでほしい」のうち考えに近いものはどちらか尋ねたところ、「やったらやっただけ給料を上げてほしい」が68.1%と多数を占めたものの、「同期の中ではあまり差をつけないでほしい」との回答が東京や大阪を上回った（図表6中央下段）。出世は望まないものの、転職はあまりしたくないというのが名古屋地区の女性新入社員の特徴で、給与についても周りあまり差がつかない方が望ましいと考える人の割合も比較的多くなっている。

図表 6. 出世意欲（女性）

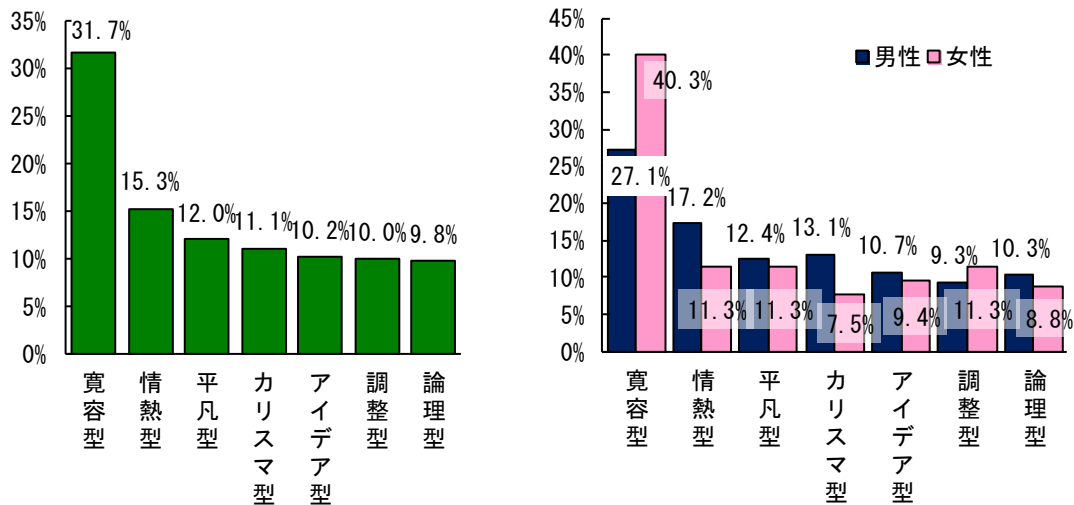


○理想の上司は「寛容型」も、動物に例えると「ライオン」

新入社員にとっての理想の上司を「寛容型」、「調整型」、「カリスマ型」、「アイデア型」、「論理型」、「平凡型」、「情熱型」の7種類から選んでもらった。その結果、最も選ばれたのは、東京や大阪と同様、「寛容型」となった。「寛容型」は特に女性からの支持を集めており、出世にこだわらない名古屋地区の女性新入社員の志向が反映されているとみられる。

他方、男性では「情熱型」や「カリスマ型」の人気も比較的高くなっている。今年度の名古屋地区の男性新入社員は上昇志向が強く、上司にもある程度の厳しさを求める傾向があるようだ。

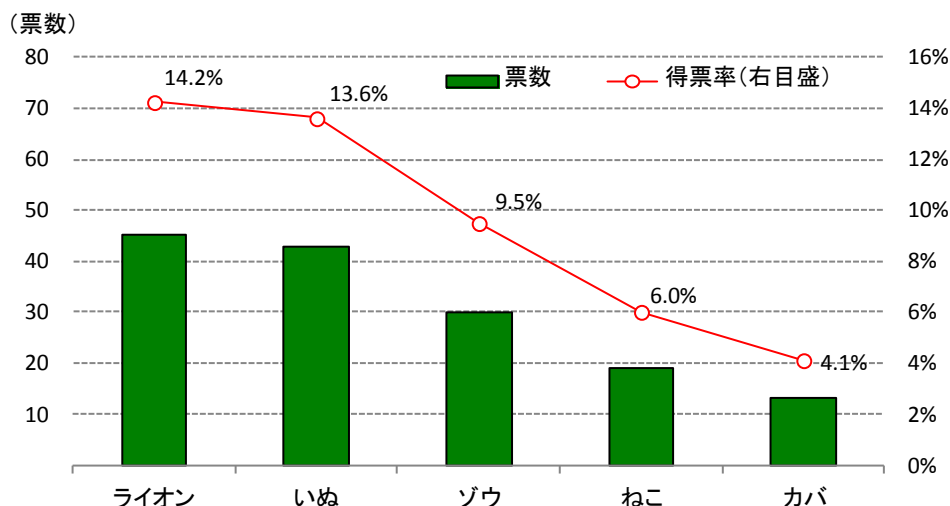
図表 7. 理想の上司



こうした理想の上司を動物に例えてもらったところ、1位に輝いたのは、東京や大阪とは異なり、「ライオン」(得票率 14.2%)であった。リーダーシップの強さと寛大さを持ち合わせた、まさに絶対王者という存在に理想の上司の姿を重ね合わせたようだ。

また、2位には東京や大阪で1位に選ばれた「いぬ」が入った。名古屋地区でも親しみやすさを理由に挙げる声が多かった。

図表 8. 理想の上司を動物に例えると



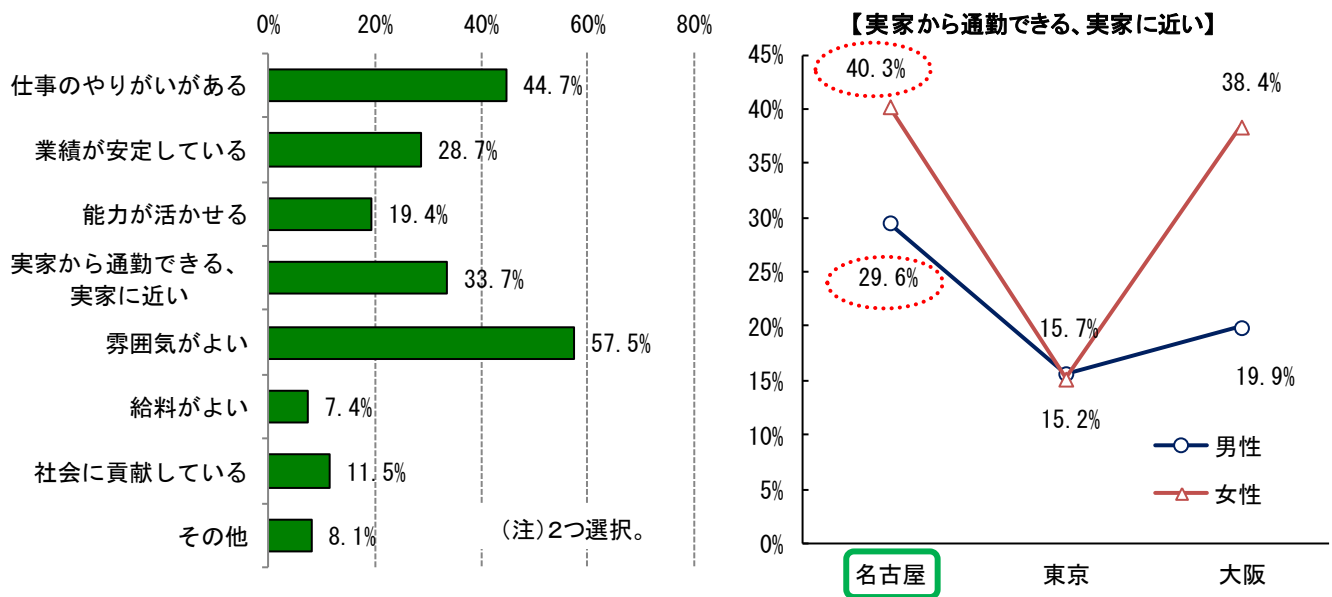
(注)有効回答数は316。

○名古屋の新入社員は地元が大好き

最後に、名古屋地区の新入社員に、就職活動の際、何を基準に会社を選んだのか聞いたところ、最も多かったのが「雰囲気が良い」(57.5%)で、次いで「仕事のやりがいがある」(44.7%)となった(図表9)。

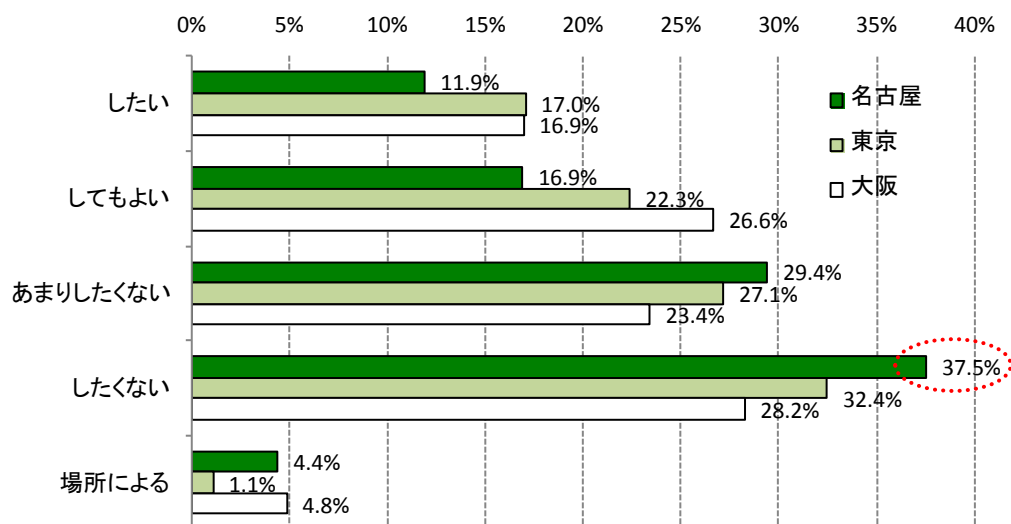
これらは東京や大阪と同じであるが、その次の第3位が名古屋地区の特徴で、「実家から通勤できる、実家に近い」(33.7%)がランクインした。男性、女性ともに東京や大阪と比べて回答割合が高く、家族の住む土地からなるべく離れたくないという傾向の強さが読み取れる。

図表 9. 会社を選んだ基準 (名古屋地区)



また、こうした地元愛にあふれる名古屋の新入社員に対して、海外勤務をしてみたいかどうか聞いたところ、特に女性で、東京や大阪よりも「あまりしたくない」(29.4%)、「したくない」(37.5%)の割合が高くなった(図表10)。

図表 10. 海外勤務をしてみたいか (女性)



－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

経済レポート

2016(平成28)年度 新入社員意識調査アンケート結果【大阪版】

～安定志向の男性社員、現実的な女性社員。理想の上司は圧倒的に「いぬ」～

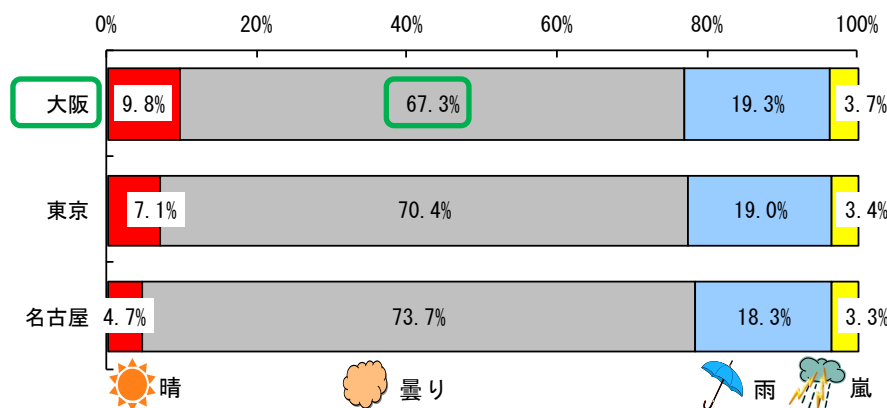
調査部 研究員 藤田 隼平

○日本の現状に対する見方は二極化

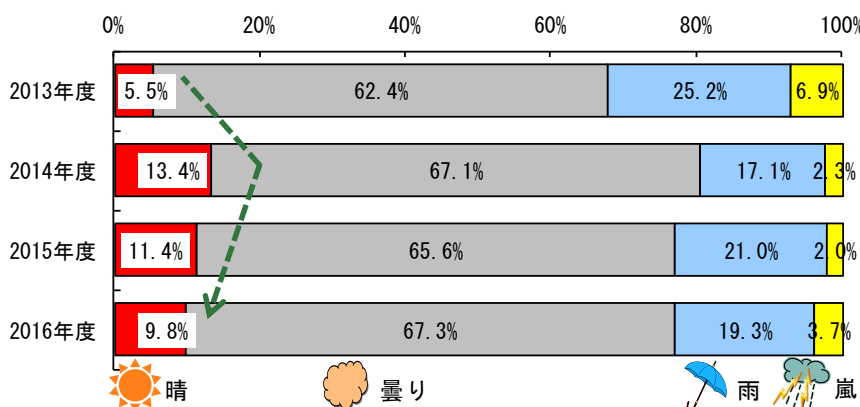
今の日本の状態をどう思うか新入社員に天気（晴、曇り、雨、嵐）で表してもらったところ、最も多く選ばれたのは「曇り」（67.3%）であった（図表1）。一方、「晴」と答えた人の割合は9.8%と1割程度にとどまったが、東京（7.1%）や名古屋（4.7%）と比べると多かった。しかし、「雨」（19.3%）や「嵐」（3.7%）との回答割合も東京や名古屋より多く、日本の現状に対する見方は二極化している。

さらに、2013年度以降の推移を見ると、「晴」と答えた人の割合は2014年度をピークに低下傾向にある（図表2）。また、「雨」の回答割合が前年より低下したものの、「嵐」の割合は上昇しており、新入社員の心理は他地域と比べると安定してはいるものの、どちらかといえば悪化していると考えられる。

図表1. 今の日本の状態を天気で表すと？



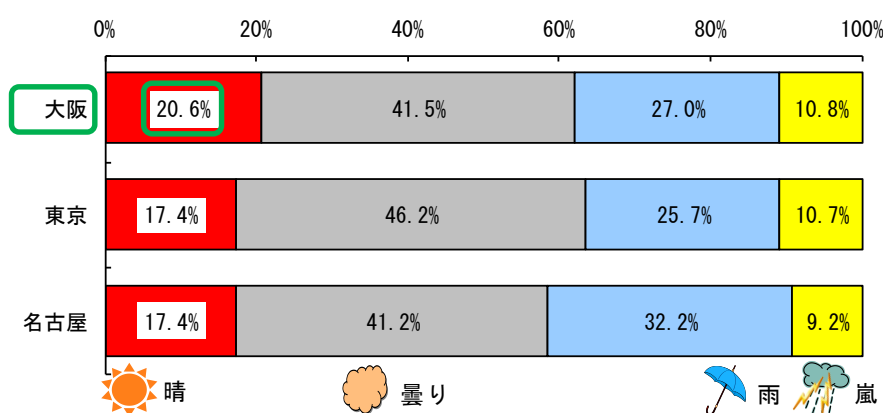
図表2. 今の日本の状態を天気で表すと？（大阪地区推移）



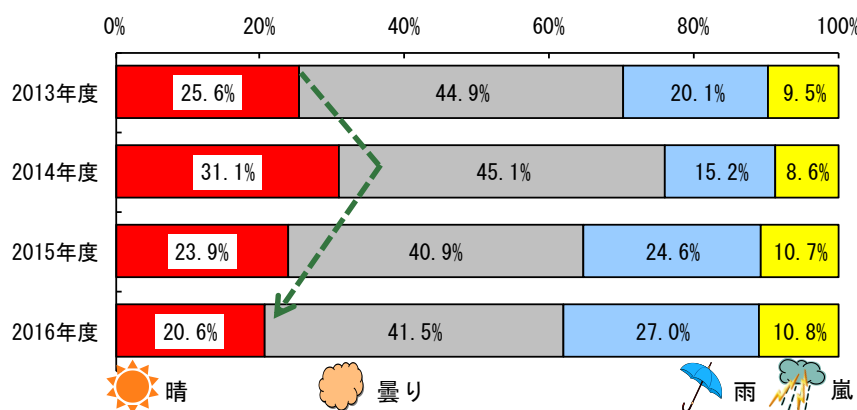
また、10年後の日本の状態についても尋ねたところ、引き続き「曇り」(41.5%)と答えた人が最も多かったものの、半数以下まで減少している(図表3)。一方、「晴」(20.6%)と答えた人の割合は2割強にまで高まっているが、「雨」(27.0%)や「嵐」(10.8%)との回答も増えている。「雨」の回答割合は名古屋の方が高いものの、「嵐」は引き続き大阪が最も多く、日本の先行きに対する見方は依然として分かれている。

もっとも、2013年度以降の推移を見ると、「晴」と答えた人の割合は最低で、逆に「雨」や「嵐」の回答割合は最も高くなっている(図表4)。大阪の新入社員の見通しは東京や名古屋と比べると二極化しているが、日本の先行きを悲観的に見る人の割合は徐々に高まっている。

図表 3. 10年後の日本の状態を天気で表すと？



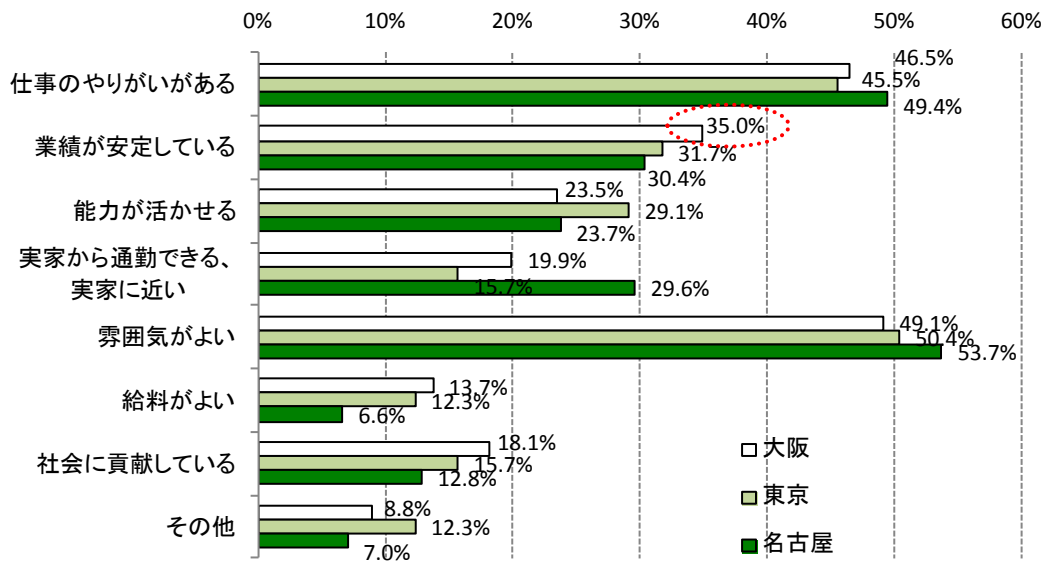
図表 4. 10年後の日本の状態を天気で表すと？ (大阪地区推移)



○大阪の男性は安定志向

男性の新入社員に就職活動の際に会社を選んだ基準を聞いたところ、東名阪ともに最も多く選ばれたのは「雰囲気が良い」で、次いで「仕事のやりがいがある」、「業績が安定している」となった（図表5）。これらの中で、特に大阪では「業績が安定している」の回答割合が東京や名古屋と比べて高くなっている。

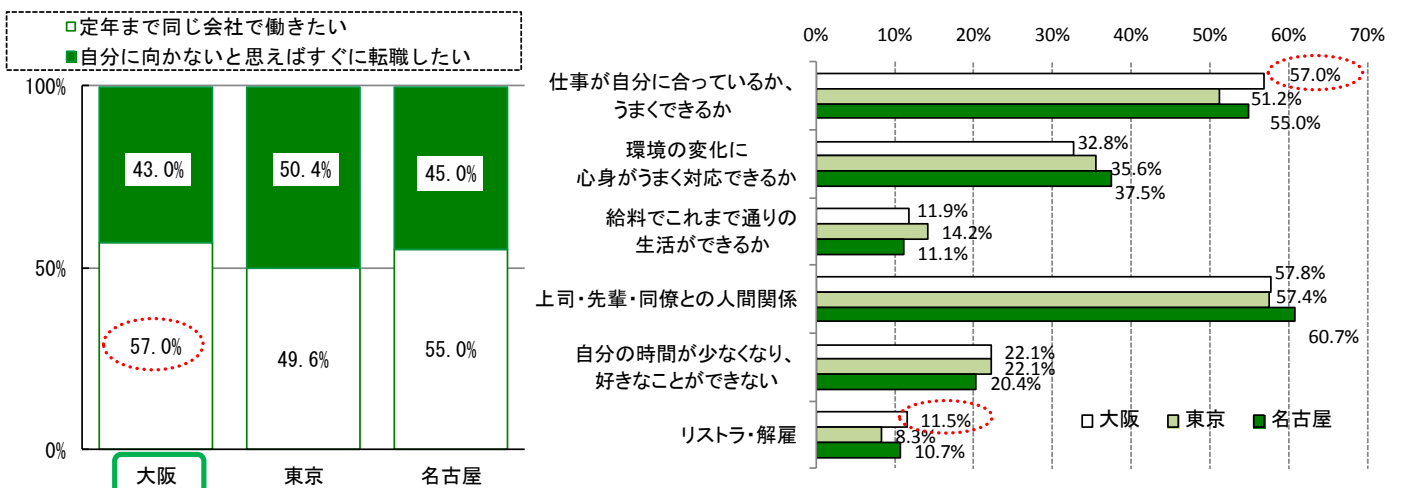
図表 5. 会社を選んだ基準（男性）



大阪の男性新入社員は比較的安定志向が強く、「定年まで同じ会社で働きたい」（57.0%）という回答が「自分に向かないと思えばすぐに転職したい」（43.0%）を上回っている（図表6左）。

また、東京や名古屋と比べて、「仕事が自分にあっているか、うまくできるか」気にしたり、「リストラ・解雇」の可能性に対して不安を抱いたりする傾向も強い（図表6右）。

図表 6. 就労意識、仕事・職場生活に対する不安（男性）

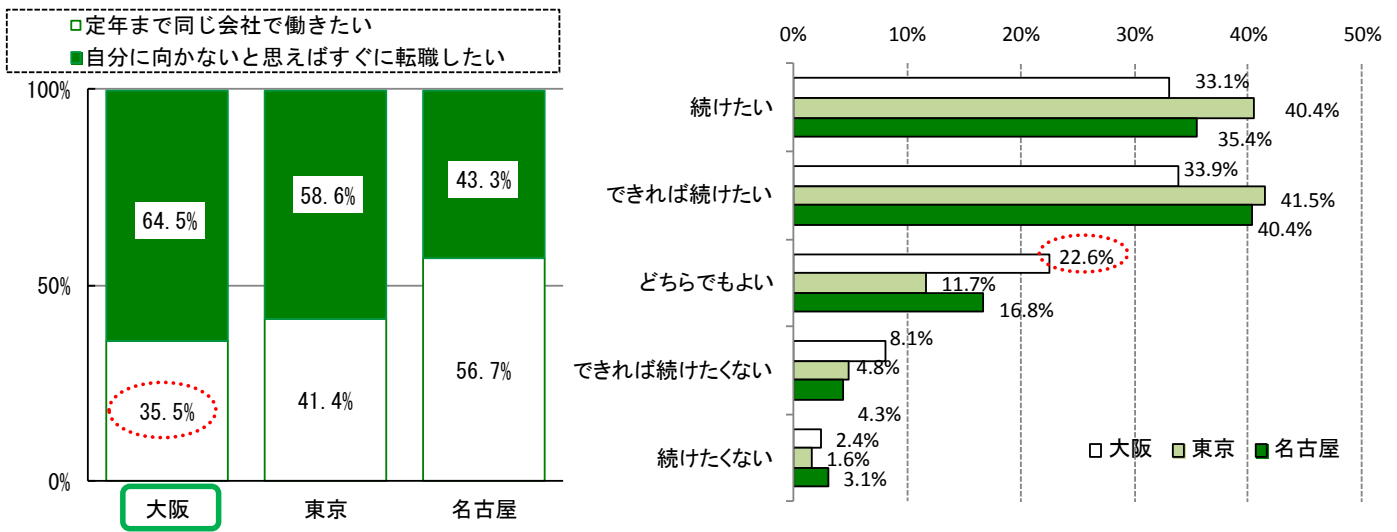


○現実的な大阪の女性

女性の新入社員に「定年まで同じ会社で働きたい」か、「自分に向かないと思えばすぐに転職したい」かどちらに近いか聞いたところ、「自分に向かないと思えばすぐに転職したい」との回答が64.5%に上った（図表7左）。東京や名古屋と比べると、会社に対するこだわりはあまり強くなく、自分に合う環境で働けることの方が大事と考えているようだ。

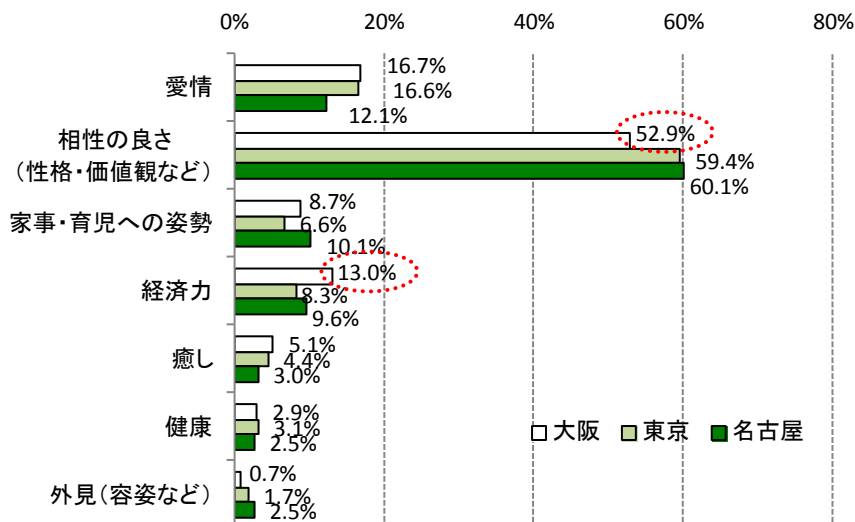
この傾向は結婚後も仕事を続けたいかという設問への回答にも表れており、東京や名古屋と比べて「どちらでもよい」の割合が高くなっている（図表7右）。会社に対するこだわりがない分、状況に合わせて柔軟に対応しようという考えの女性が比較的多いとみられる。

図表 7. 就労意識、結婚後も仕事を続けたいか？（女性）



さらに大阪の女性新入社員に結婚相手に最も望むものを聞いたところ、東京や名古屋と同じく「相性の良さ」が最も多く選ばれた（図表8）。もっとも、その割合は東京や名古屋と比べて低く、代わりに大阪では「経済力」の回答割合が高くなっている。結婚相手を選ぶ際にも現実的な傾向があるようだ。

図表 8. 結婚相手に最も望むもの（女性）

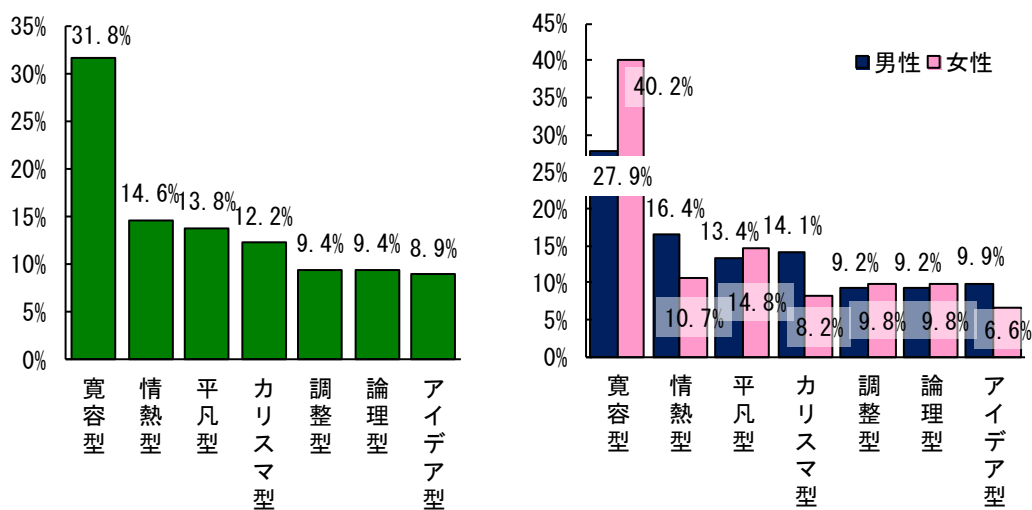


○理想の上司は「寛容型」、動物に例えると「いぬ」が圧倒的

新入社員にとっての理想の上司を「寛容型」、「調整型」、「カリスマ型」、「アイデア型」、「論理型」、「平凡型」、「情熱型」の7種類から選んでもらった。その結果、最も選ばれたのは東京や名古屋と同様、「寛容型」となった（図表9）。

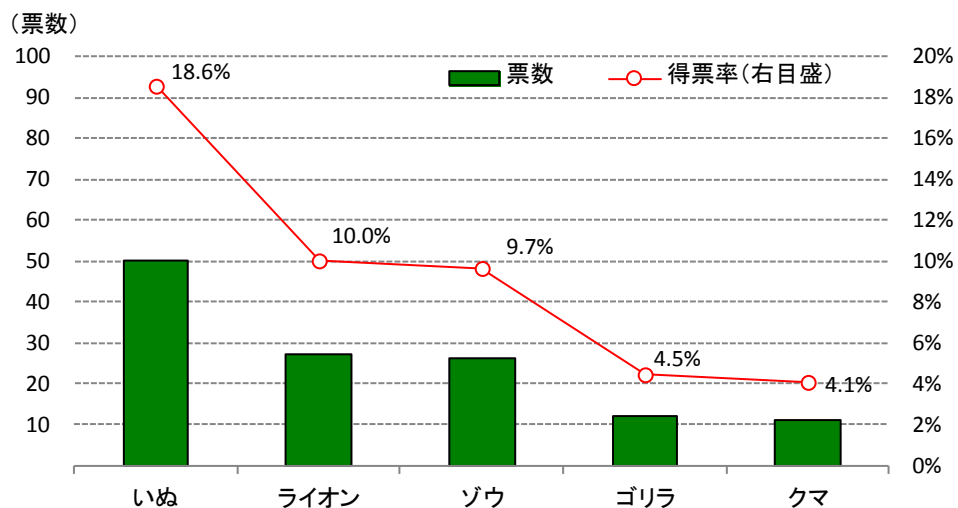
また、男女別では、1位は男女ともに「寛容型」であったが、2位以下には違いが見られた。男性からは「情熱型」や「カリスマ型」など、ある程度の厳しさを持って引っ張ってくれる様なリーダー的存在が比較的支持を集めているのに対し、女性からは「平凡型」の様なごく普通の上司が人気を集めている。

図表 9. 理想の上司



さらに、こうした理想の上司を動物に例えてもらったところ、1位は「いぬ」（得票率18.6%）であった（図表10）。その支持率は東京（11.9%）や名古屋（13.6%）を上回った。親しみやすく、相談しやすそうなイメージが「寛容型」の上司を好む大阪の新入社員の心を特につかんだようだ。

図表 10. 理想の上司を動物に例えると



(注)有効回答数は269。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。